

NO. 88

光

N. S. R.

機關雜誌

水泳

日本水泳連盟

1950

目 次

昭和25年度日本選手権水上競技大會兼日米對抗豫選會	宍道洋一	(1)
全米男子戶外水泳選手権兼日米對抗豫選會		(8)
早慶對抗水上競技大會	高橋弘	(10)
明・立・日三大學對抗水上競技大會		(11)
早稻田—關西學院 定期對抗水上競技大會		(12)
關東高等學校選手権水上競技大會		(12)
四都市女子對抗水上競技大會		(14)
ブラジル遠征記	遊佐正憲	(15)
スターター十年雜考	新穂榮藏	(19)
水球新規則の問題	和田幸一	(22)
海外ニュース		(23)
古橋選手の泳ぎを中心に	ジャム・ハンデイ	(23)
全米學生大會		(26)
全米女子室内水泳選手権大會		(27)
全米男子室内水泳選手権大會		(27)
ジョン・マーシャルの最近の記録		(29)
世界新記録		(29)
オーストラリア選手権		(29)
ヘルムス記念館におさめられたアメリカの名選手		(30)
飛込のハーラン選手プロに		(30)
水泳話の泉		(21)
あとがき		(30)

昭和25年度日本選手権水上競技大會

兼 日米對抗豫選會

宍 道 洋 一

昭和25年度の日本選手権水上競技大會は第3回日米對抗の豫選を兼ねて7月22日から25日まで、初日は東伏見プール、2日目以後は神宮プールで舉行された。

競泳は申込者約650名（男女合計）という未曾有の數字を示し、短距離を除く外は質量共に異常な躍進をみせ、戦後古橋、橋爪等によつて代表された日本水泳界も漸く量的的發展をとげつゝあることが看取された。即ち長距離陣の充實、平泳特にバタフライの驚異的進歩と普及、背泳第二陣の飛躍等があげられるのであるが短距離が依然として不調であることは頗る淋しい。又日米對抗に備えた爲もあろうが、濱口、古橋、橋爪、田中純等の米國遠征組の成績が香しくなく、これに反して、100米の眞木、200米の東、400米、1500米の田中寧等の活躍

は目覺しく、特に平泳において、清水、梶川、萩原、のトリオが久し振りに葉室の日本記録を破つて、萬丈の氣をはき、又背泳陣の新進、宮田、大久保、上村、倉橋等が山本、待鳥等の古豪に混つて活躍したのは、最大の弱點といわれた背泳にも、近き將來大飛躍が期待出来るものとして、大に喜んで可なりである。

女子競泳は自由形の山下、新子、田村、安部、森、背泳の小椋姉妹、平泳の大野、大石等によつて昨年以上の成績をあげたが、總體的にレベルの低い現在、根本的に考え直す必要があるように思われる。陸上が世界的水準に達していることを思えば、水上も又奮起せざるべけんやである。



— 日本選手権大會四百米自由形決勝 —

男子競泳之部

100米自由形

豫選(2着迄及最優3着2名人選)

組	順位	氏名	所屬	時間
A	1.	山本新吾	(關西大)	1:03.0
	2.	茶畑大	(櫻泳會)	1:03.2
	3.	浪花欣吾	(稻泳會)	1:03.4
B	1.	井原致	(伊東高)	1:02.6
	2.	樋口清治	(關西學院)	1:02.8
	3.	木本彩	(櫻泳會)	1:03.0
(最優3着)				
C	1.	堂崎治好	(瀬戸田高)	1:02.8
	2.	杉原滿弘	(稻泳會)	1:03.2
	3.	小柳清志	(稻泳會)	1:03.4
D	1.	丸山茂幸	(櫻泳會)	:59.8
	2.	柳本隆	(稻泳會)	1:03.4
	3.	石井明	(白門水)	1:03.8
E	1.	仲村武平	(聖ポール)	1:00.8
	2.	佐々木猛	(富士製鐵)	1:03.2
	3.	青山幸郎	(成蹊高)	1:03.2
(最優3着)				
F	1.	眞木昌	(泳櫻會)	1:00.4
	2.	谷合繁男	(稻泳會)	1:03.0
	3.	谷訥	(津島高)	1:03.8
G	1.	谷川禎次郎	(佐伯一高)	1:01.6
	2.	田中武	(聖ポール)	1:03.0
	3.	安藤實	(稻泳會)	1:03.4
H	1.	濱口喜博	(櫻泳會)	1:00.6
	2.	服部良	(櫻泳會)	1:02.0
	3.	鈴木清	(聖ポール)	1:03.2

準決勝(3着迄入選)

A	1.	濱口喜博	(櫻泳會)	1:00.4
	2.	山本新吾	(關西大)	1:01.4
	3.	眞木昌	(櫻泳會)	1:01.8
B	1.	丸山茂幸	(櫻泳會)	1:00.2
	2.	仲村武平	(聖ポール)	1:00.8
	3.	谷川禎次郎	(佐伯一高)	1:01.0

決勝

1.	眞木昌	(櫻泳會)	:59.6
2.	濱口喜博	(櫻泳會)	:59.8
3.	丸山茂幸	(櫻泳會)	1:00.2
4.	仲村武平	(聖ポール)	1:00.6
5.	谷川禎次郎	(佐伯一高)	1:01.2

6. 山本新吾 (關西大) 1:01.2

200米自由形

豫選(2着迄及最優3着4名人選)

A	1.	松岡信義	(三水會)	2:16.4
	2.	谷川禎次郎	(佐伯一高)	2:19.8
	3.	小杉德雄	(櫻泳會)	2:22.6
B	1.	仲村武平	(聖ポール)	2:18.8
	2.	柳本隆	(稻泳會)	2:21.0
	3.	坂本幸盛	(八幡製鐵)	2:21.0
(最優3着)				
C	1.	東昇	(櫻泳會)	2:14.6
	2.	山本新吾	(關西大)	2:18.0
	3.	鷹野強	(磐田農高)	2:20.0
(最優3着)				
D	1.	木本彰	(櫻泳會)	2:21.2
	2.	安藤實	(稻泳會)	2:22.4
	3.	井原致	(伊東高)	2:23.8
E	1.	眞木昌	(櫻泳會)	2:16.0
	2.	西擴	(駿臺夕)	2:17.8
	3.	徳重里司	(櫻泳會)	2:20.4
(最優3着)				
F	1.	丸山茂幸	(櫻泳會)	2:15.4
	2.	杉原滿弘	(稻泳會)	2:17.2
	3.	樋口清治	(關西學院)	2:20.2
(最優3着)				
G	1.	濱口喜博	(櫻泳會)	2:16.8
	2.	谷訥	(津島高)	2:20.4
	3.	青山幸郎	(成蹊高)	2:22.4

準決勝(4着迄入選)

A	1.	丸山茂幸	(櫻泳會)	2:12.6
	2.	眞木昌	(櫻泳會)	2:15.4
	3.	鷹野強	(磐田農高)	2:16.6
B	1.	東昇	(櫻泳會)	2:14.0
	2.	濱口喜博	(櫻泳會)	2:14.2
	3.	仲村武平	(聖ポール)	2:16.0
4.	松岡信義	(三水會)	2:16.4	

決勝

1.	東昇	(櫻泳會)	2:12.6
2.	丸山茂幸	(櫻泳會)	2:13.4
3.	濱口喜博	(櫻泳會)	2:14.0
4.	仲村武平	(聖ポール)	2:16.8
5.	杉原滿弘	(稻泳會)	2:16.8
6.	鷹野強	(磐田農高)	2:17.2

400 米 自由形

豫選 (3着迄人選)

A	1.	田中純夫	(稻泳會)	4:56.6
	2.	川畑彌	(櫻泳會)	4:56.6
	3.	杉浦貞夫	(三水會)	4:56.6
B	1.	橋爪四郎	(櫻泳會)	4:52.4
	2.	松岡信義	(三水會)	4:53.6
	3.	濱田芳夫	(D.S.C.)	5:01.4
C	1.	川口友平	(伊東高)	4:54.8
	2.	本山昌平	(櫻泳會)	4:56.2
	3.	林法生	(駿臺ク)	4:57.0
D	1.	川口義和	(駿臺ク)	4:56.0
	2.	藤野健三	(稻泳會)	4:57.0
	3.	鷹野強	(磐田農高)	4:57.0
E	1.	東昇	(櫻泳會)	4:54.2
	2.	西攪	(駿臺ク)	4:58.8
	3.	田造勝美	(稻泳會)	5:00.2
F	1.	古橋廣之進	(櫻泳會)	4:52.6
	2.	田中寧夫	(稻泳會)	4:52.8
	3.	淺野滿	(中京商高)	4:55.0

以上の外豫選で5分を切つた者は

		吉岡清吉	(三水會)	4:55.4
		徳重里司	(櫻泳會)	4:58.4
		北村康雄	(高知商高)	4:59.0

準決勝 (4着迄及最優5着人選)

A	1.	古橋廣之進	(櫻泳會)	4:42.2
	2.	田中寧夫	(稻泳會)	4:44.8
	3.	川畑彌	(櫻泳會)	4:50.8
	4.	田中純夫	(稻泳會)	4:51.0
	5.	川口友平	(伊東高)	4:55.2
B	1.	東昇	(櫻泳會)	4:45.0
	2.	橋爪四郎	(櫻泳會)	4:49.4
	3.	川口義和	(駿臺ク)	5:51.0
	4.	本山昌平	(櫻泳會)	4:52.2
	5.	杉浦貞夫	(三水會)	4:53.8

(最優5着)

決勝

	1.	古橋廣之進	(櫻泳會)	4:36.4
	2.	田中寧夫	(稻泳會)	4:42.8
	3.	東昇	(櫻泳會)	4:44.8
	4.	川畑彌	(櫻泳會)	4:49.4
	5.	本山昌平	(櫻泳會)	4:50.4
	6.	田中純夫	(稻泳會)	4:51.6

300米正式計時 古橋廣之進 3:26.6

1.500 米 自由形

豫選 (タイムレース)

A		川口義和	(駿臺ク)	19:36.8
		北村康雄	(高知商高)	20:13.8
		濱田芳夫	(D.S.C.)	20:28.2
		芦澤哲男	(稻泳會)	20:43.4
B		本山昌平	(櫻泳會)	19:39.6
		田中純夫	(稻泳會)	19:42.4
C		橋爪四郎	(櫻泳會)	19:22.4
		藤野健三	(稻泳會)	19:47.0
		淺野滿	(中京商高)	20:36.6
D		田中寧夫	(稻泳會)	19:22.6
		川畑彌	(櫻泳會)	19:37.8
		林法生	(駿臺ク)	20:19.6
		吉岡清吉	(三水會)	20:38.4
		松山徹	(聖ポール)	20:58.6
E		古橋廣之進	(櫻泳會)	19:02.2
		川口友平	(伊東高)	19:40.8
		杉浦貞夫	(三水會)	20:01.0
		田造勝美	(稻泳會)	20:26.8

(21分以内の者のみ掲ぐ)

決勝

	1.	古橋廣之進	(櫻泳會)	19:04.2
	2.	橋爪四郎	(櫻泳會)	19:06.8
	3.	川口義和	(駿臺ク)	19:14.0
	4.	田中寧夫	(稻泳會)	19:20.0
	5.	川畑彌	(櫻泳會)	19:24.2
	6.	田中純夫	(稻泳會)	19:32.8
	7.	藤野健三	(稻泳會)	19:38.6
	8.	川口友平	(伊東高)	19:40.0
	9.	本山昌平	(櫻泳會)	19:47.2

1000米正式計時

古橋廣之進 12:42.0

100 米 背泳

豫選 (2着迄及最優3着2名人選)

A	1.	大久保憲二	(逗子開成)	1:13.2
	2.	近藤久仁正	(中京商高)	1:14.8
	3.	和氣壽彦	(三水會)	1:15.0
B	1.	黒佐年明	(八幡製鐵)	1:12.2
	2.	宮部修	(櫻泳會)	1:14.0
	3.	榎谷周二	(櫻泳會)	1:14.2

(最優3着)

C	1.	藤井敬次郎	(横濱コム)	1:13.4
---	----	-------	--------	--------

D	2.	芦田拓郎	(稻泳會)	1:13.4
	3.	廣末敏正	(櫻泳會)	1:14.8
	1.	西野恭正	(高知水ク)	1:12.4
	2.	宮田春雄	(櫻泳會)	1:13.0
	3.	中島雅好	(稻泳會)	1:14.0

(最優3着)

E	1.	木部俊之	(駿臺ク)	1:13.2
	2.	白井孝	(三水會)	1:13.4
	3.	大古敬宜	(白門水)	1:15.0
F	1.	待鳥啓三	(稻泳會)	1:11.6
	2.	上村稔	(稻泳會)	1:12.4
	3.	赤檜卓爾	(三水會)	1:14.6
G	1.	山本速水	(關西學院)	1:13.0
	2.	倉橋範彥	(濱松西高)	1:13.8
	3.	町野和男	(櫻泳會)	1:15.0

準決勝 (3着迄入選)

A	1.	黒佐年明	(八幡製鐵)	1:11.2
	2.	西野恭正	(高知水ク)	1:11.8
	3.	木部俊之	(駿臺ク)	1:12.8
B	1.	待鳥啓三	(稻泳ク)	1:11.0
	2.	上村稔	(櫻泳會)	1:11.6
	3.	山本速水	(關西學院)	1:11.6

決勝

	1.	山本速水	(關西學院)	1:10.8
	2.	待鳥啓三	(稻泳會)	1:11.2
	3.	黒佐年明	(八幡製鐵)	1:11.8
	4.	上村稔	(櫻泳會)	1:12.2
	5.	西野恭正	(高知水ク)	1:12.2
	6.	木部俊之	(駿臺ク)	1:13.0

200米背泳

豫選 (3着迄入選)

A	1.	宮部修	(櫻泳會)	2:40.0
	2.	大古敬宜	(白門水)	2:42.2
	3.	黒佐年明	(八幡製鐵)	2:43.2
B	1.	木部俊之	(駿臺ク)	2:39.8
	2.	大久保憲二	(逗子開成)	2:40.0
	3.	廣末敏正	(櫻泳會)	2:42.0
C	1.	待鳥啓三	(稻泳會)	2:40.0
	2.	上村稔	(櫻泳會)	2:42.4
	3.	近藤久仁正	(中京商高)	2:42.6
D	1.	中島雅好	(稻泳會)	2:39.4
	2.	倉橋範彥	(濱松西高)	2:40.8
	3.	西野恭正	(高知水ク)	2:44.2

E	1.	和氣壽彦	(三水會)	2:41.6
	2.	芦田拓郎	(稻泳會)	2:41.6
	3.	榎谷周二	(櫻泳會)	2:42.2
F	1.	宮田春雄	(櫻泳會)	2:38.6
	2.	山本速水	(關西學院)	2:40.2
	3.	足立行敏	(稻泳會)	2:47.6

準決勝 (4着迄入選)

A	1.	山本速水	(關西學院)	2:35.8
	2.	和氣壽彦	(三水會)	2:38.4
	3.	中島雅好	(稻泳會)	2:39.2
	4.	宮部修	(櫻泳會)	2:39.8
B	1.	大久保憲二	(逗子開成)	2:35.2
	2.	宮田春雄	(櫻泳會)	2:36.2
	3.	倉橋範彥	(濱松西高)	2:38.6
	4.	待鳥啓三	(稻泳會)	2:39.0

決勝

	1.	宮田春雄	(櫻泳會)	2:35.8
	2.	山本速水	(關西學院)	2:36.2
	3.	大久保憲二	(逗子開成)	2:36.4
	4.	待鳥啓三	(稻泳會)	2:38.2
	5.	中島雅好	(稻泳會)	2:38.4
	6.	宮部修	(櫻泳會)	2:39.0

100米平泳

豫選 (2着迄及最優3着2名人選)

A	1.	梶川孝義	(稻泳會)	1:15.0 (バ)
	2.	下坂篤	(櫻泳會)	1:16.6
	3.	大澤晋	(聖ポール)	1:20.8 (バ)
B	1.	安東昭二郎	(櫻泳會)	1:17.6 (バ)
	2.	田村福義	(高知商高)	1:18.0 (バ)
	3.	長澤二郎	(稻泳會)	1:18.0 (バ)

(最優3着)

C	1.	杉山祐二	(聖ポール)	1:18.6
	2.	匠賢一	(稻泳會)	1:20.6
	3.	萩原義春	(白門水)	1:23.4
D	1.	清水敏夫	(三水會)	1:13.6 (バ)
	2.	關根善次郎	(稻泳會)	1:20.8
	3.	中村仁三	(八幡製鐵)	1:20.8
E	1.	藤岡達昂	(稻泳會)	1:14.0 (バ)
	2.	五味茂雄	(櫻泳會)	1:18.6
	3.	赤坂榮美	(稻泳會)	1:22.0 (バ)
F	1.	宇田久壽秀	(櫻泳會)	1:14.0 (バ)
	2.	山本正雄	(觀音寺高)	1:15.2 (バ)
	3.	宮澤正夫	(稻泳會)	1:17.2 (バ)

(最優3着)

- G 1. 山田芳美 (聖ポール) 1:14.0 (バ)
2. 飯田俊太郎 (稻泳會) 1:15.0 (バ)
2. 毛利洋一 (櫻泳會) 1:19.2
- H 1. 萩原孝男 (櫻泳會) 1:12.0 (バ)
- (日本新記録)
2. 水貝利重 (稻泳會) 1:19.2 (バ)
3. 南利昌 (關西大) 1:20.0 (バ)

準決勝(4着迄入選)

- A 1. 清水敏夫 (三水會) 1:11.0 (バ)
- (日本新)
2. 梶川孝義 (稻泳會) 1:12.0 (バ)
- (日本新)
3. 藤岡達昂 (稻泳會) 1:14.8 (バ)
4. 飯田俊太郎 (稻泳會) 1:15.6 (バ)
- B 1. 萩原孝男 (櫻泳會) 1:12.8 (バ)
2. 宇田久壽秀 (櫻泳會) 1:12.8 (バ)
3. 山田芳美 (聖ポール) 1:14.2 (バ)
4. 山本正雄 (觀音寺高) 1:15.2 (バ)

決勝

1. 清水敏夫 (三水會) 1:12.2 (バ)
- (日本新)
2. 梶川孝義 (稻泳會) 1:12.8 (バ)
- (大會新)
3. 萩原孝男 (櫻泳會) 1:13.2 (バ)
4. 宇田久壽秀 (櫻泳會) 1:14.0 (バ)
5. 山田芳美 (聖ポール) 1:15.0 (バ)
6. 山本正雄 (觀音寺高) 1:15.6 (バ)

200米平泳

豫選(2着迄及最優3着4名人選)

- A 1. 長澤二郎 (稻泳會) 2:48.6 (バ)
2. 山本正雄 (觀音寺高) 2:50.2 (バ)
3. 中村仁三 (八幡製鐵) 2:56.2

(最優3着)

宇田は1着となつたが反則の爲失格

- B 1. 山田芳美 (聖ポール) 2:47.0 (バ)
2. 匠賢一 (稻泳會) 2:51.0
3. 安東昭二郎 (櫻泳會) 3:00.6 (バ)
- C 1. 五味茂雄 (櫻泳會) 2:49.2
2. 清水敏夫 (三水會) 2:49.2 (バ)
3. 藤岡達昂 (稻泳會) 2:54.4 (バ)
- (最優3着)
- D 1. 梶川孝義 (稻泳會) 2:46.2 (バ)
2. 橋本禮次 (白門水) 3:01.8
3. 野網英一 (櫻泳會) 3:02.6

- E 1. 毛利洋一 (櫻泳會) 2:49.4
2. 杉山祐二 (聖ポール) 2:51.6
3. 南利昌 (關西大) 2:52.0 (バ)
- (最優3着)
- F 1. 飯田俊太郎 (稻泳會) 2:49.4 (バ)
2. 下坂篤 (櫻泳會) 2:51.8
3. 關根善次郎 (稻泳會) 2:53.0
- (最優3着)
- G 1. 萩原孝男 (櫻泳會) 2:41.8 (バ)
2. 水貝利重 (稻泳會) 2:47.6 (バ)
3. 大橋秀之 (津島高) 2:58.2

準決勝(4着迄及最優5着入選)

- A 1. 萩原孝男 (櫻泳會) 2:39.2 (バ)
- (日本新記録)
2. 清水敏夫 (三水會) 2:41.8 (バ)
3. 長澤二郎 (稻泳會) 2:42.8 (バ)
4. 水貝利重 (稻泳會) 2:46.8 (バ)
5. 下坂篤 (櫻泳會) 2:48.2
- (最優5着)
- B 1. 梶川孝義 (稻泳會) 2:43.8 (バ)
2. 山田芳美 (聖ポール) 2:44.6 (バ)
3. 山本正雄 (觀音寺高) 2:48.2 (バ)
4. 五味茂雄 (櫻泳會) 2:49.0
5. 毛利洋一 (櫻泳會) 2:49.8

決勝

1. 萩原孝男 (櫻泳會) 2:42.2 (バ)
2. 梶川孝義 (稻泳會) 2:43.0 (バ)
3. 清水敏夫 (三水會) 2:43.0 (バ)
4. 長澤二郎 (稻泳會) 2:44.4 (バ)
5. 山田芳美 (聖ポール) 2:46.4 (バ)
6. 五味茂雄 (櫻泳會) 2:46.8

女子競泳之部

50米自由形

豫選(4着迄入選)

- | 組 | 順位 | 氏名 | 所屬 | 時間 |
|---|----|-----------|--------|------|
| A | 1. | 坂口文子 | (五條高) | 36.0 |
| | 2. | ジュリー・フランク | (聖心高) | 36.6 |
| | 3. | 石田道子 | (朱雀高) | 37.8 |
| | 4. | 波多野初枝 | (西京高) | 39.2 |
| B | 1. | 青木照子 | (伊東水) | 35.0 |
| | 2. | 皆良田晴子 | (明善ク) | 37.0 |
| | 3. | 太田教子 | (南多摩高) | 37.6 |

	4.	中村保子	(筑紫女高)	37.8
C	1.	高橋美恵子	(南多摩ク)	36.2
	2.	塚原康子	(鴨沂高)	37.8
	3.	石田和子	(富國生命)	38.6
	4.	神保なほみ	(城南高)	38.8
D	1.	山下貞子	(五條高)	34.6
	2.	永瀬美代子	(五條高)	37.0
	3.	田邊理子	(泉丘高)	37.4
	4.	細野僖子	(東京女ク)	38.2

準決勝(3着迄入選)

A	1.	山下貞子	(五條高)	35.0
	2.	高橋美恵子	(南多摩ク)	35.8
	3.	ジュリー・フランク	(聖心高)	36.8
B	1.	青木照子	(伊東水)	35.4
	2.	坂口文子	(五條高)	35.6
	3.	皆良田晴子	(明善ク)	37.0

決勝

	1.	山下貞子	(五條高)	33.6 (大會新)
	2.	坂口文子	(五條高)	34.8
	3.	青木照子	(伊東水)	35.8
	4.	皆良田晴子	(明善ク)	36.0
	5.	ジュリー・フランク	(聖心高)	36.0
	6.	高橋美恵子	(南多摩ク)	36.4

100米自由形

豫選(4着迄入選)

A	1.	坂口文子	(五條高)	1:20.4
	2.	高橋美恵子	(南多摩ク)	1:20.4
	3.	中村保子	(筑紫女高)	1:29.0
	4.	白石洋子	(福岡中央)	1:29.2
B	1.	田村美佐子	(伊都高)	1:15.4
	2.	青木暉子	(朱雀高)	1:20.8
	3.	皆良田晴子	(明善ク)	1:24.2
	4.	太田教子	(南多摩高)	1:25.0
C	1.	山下貞子	(五條高)	1:20.2
	2.	田邊理子	(泉丘高)	1:23.6
	3.	石田道子	(朱雀高)	1:23.8
	4.	永瀬美代子	(五條高)	1:24.2
D	1.	新子富子	(五條高)	1:15.2
	2.	森下美奈子	(六嘉中)	1:19.2
	3.	ジュリー・フランク	(聖心高)	1:25.2
	4.	浅村恭子	(朱雀高)	1:29.8

準決勝(3着迄入選)

A	1.	田村美佐子	(伊藤高)	1:15.8
	2.	森下美奈子	(六嘉中)	1:17.8
	3.	青木暉子	(朱雀高)	1:19.8
B	1.	新子富子	(五條高)	1:17.0
	2.	山下貞子	(五條高)	1:20.0
	3.	高橋美恵子	(南多摩ク)	1:22.4

決勝

	1.	新子富子	(五條高)	1:13.2 (大會新)
	2.	田村美佐子	(伊都高)	1:14.0 (大會新)
	3.	山下貞子	(五條高)	1:16.4
	4.	森下美奈子	(六嘉中)	1:17.8
	5.	青木暉子	(朱雀高)	1:20.2
	6.	高橋美恵子	(南多摩ク)	1:22.0

200米自由形

豫選(3着迄入選)

A	1.	安部佐和子	(伊東高)	2:48.2
	2.	田村美佐子	(伊都高)	2:49.6
	3.	江濱敦子	(筑紫女高)	2:55.0
B	1.	森あき子	(金城大)	2:52.0
	2.	森下美奈子	(六嘉中)	2:57.4
	3.	塚本千賀子	(南多摩高)	2:59.2
C	1.	新子富子	(五條高)	2:47.8
	2.	高山玲子	(吳精華高)	2:56.8
	3.	青木暉子	(朱雀高)	2:57.6

決勝

	1.	新子富子	(五條高)	2:43.8
	2.	田村美佐子	(伊都高)	2:44.4
	3.	安部佐和子	(伊東高)	2:44.4
	4.	森あき子	(金城大)	2:50.0
	5.	江濱敦子	(筑紫女高)	2:52.6
	6.	塚本千賀子	(南多摩高)	2:54.0

400米自由形

豫選(4着迄最優5等入選)

A	1.	安部佐和子	(伊東高)	5:49.4
	2.	塚本千賀子	(南多摩高)	6:20.8
	3.	上田香	(五條高)	6:25.2
	4.	丸山朝子	(下田北高)	6:26.6
	5.	保見紀子	(武蔵高)	6:28.2

(最優5着)

B	1.	森 あき子	(金城大)	6:02.8
	2.	江 濱 敦子	(筑紫女高)	6:07.8
	3.	高山 玲子	(吳精華高)	6:11.2
	4.	山本 英子	(山城高)	6:36.4
	5.	鈴木 恵子	(伊東高)	6:45.8

決 勝

	1.	安部 佐和子	(伊東高)	5:47.8
	2.	森 あき子	(金城大)	5:54.4
	3.	江 濱 敦子	(筑紫女高)	6:05.0
	4.	塚本 千賀子	(南多摩高)	6:07.2
	5.	高山 玲子	(吳精華高)	6:10.0
	6.	上田 香	(五條高)	6:17.8

50米 背 泳

豫 選 (5着迄入選)

A	1.	小 椋 とみ子	(成徳高)	40.0
	2.	佐藤 喜美子	(鴨沂會)	40.8
	3.	巽 英子	(五條高)	42.8
	4.	竹内 妙子	(神戸大丸)	47.2
	5.	岡村 康子	(山城高)	—
B	1.	小 椋 とし子	(成徳高)	40.0
	2.	佐竹 富美子	(東洋レ)	41.2
	3.	河村 遊津美	(鴨沂高)	42.4
	4.	前原 ともゑ	(筑紫女高)	43.8
	5.	高橋 京子	(銚子水)	44.0
C	1.	野口 幸子	(相愛高)	41.2
	2.	三浦 秀	(南多摩ク)	41.8
	3.	片岡 澄子	(五條高)	41.8
	4.	可兒 令子	(神戸大丸)	42.0
	5.	平尾 靜子	(横濱學園)	46.2

準 決 勝 (3着迄入選)

A	1.	小 椋 とし子	(成徳高)	39.4
	2.	片岡 澄子	(五條高)	41.0
	3.	三浦 秀	(南多摩ク)	41.0
B	1.	小 椋 とみ子	(成徳高)	39.2
	2.	佐竹 富美子	(東洋レ)	39.8
	3.	野口 幸子	(相愛高)	41.4

決 勝

	1.	小 椋 とみ子	(成徳高)	39.0
	2.	佐竹 富美子	(東洋レ)	39.6
	3.	野口 幸子	(相愛高)	39.6
	4.	小 椋 とし子	(成徳高)	39.8

	5.	三浦 秀	(南多摩ク)	40.2
	6.	片岡 澄子	(五條高)	41.4

100米 背 泳

豫 選 (5着迄入選)

A	1.	三浦 秀	(南多摩ク)	1:30.2
	2.	佐竹 富美子	(東洋レ)	1:30.6
	3.	片岡 澄子	(五條高)	1:31.4
	4.	前原 ともゑ	(筑紫女高)	1:35.2
	5.	大塚 彰子	(福岡中央)	1:36.0
B	1.	佐藤 喜美子	(鴨沂會)	1:28.0
	2.	小 椋 とし子	(成徳高)	1:28.6
	3.	野口 彰子	(相愛高)	1:30.6
	4.	河村 遊津美	(鴨沂高)	1:33.6
	5.	庄司 米子	(安房二高)	1:44.6
C	1.	小 椋 とみ子	(成徳高)	1:27.8
	2.	可兒 令子	(神戸大丸)	1:33.6
	3.	巽 英子	(五條高)	1:34.8
	4.	山川 和彌	(彦根高)	1:37.2
	5.	竹内 妙子	(神戸大丸)	—

準 決 勝 (3着迄入選)

A	1.	小 椋 とし子	(成徳高)	1:27.4
	2.	佐藤 喜美子	(鴨沂會)	1:29.4
	3.	佐竹 富美子	(東洋レ)	1:29.6
B	1.	小 椋 とみ子	(成徳高)	1:28.0
	2.	野口 幸子	(相愛高)	1:29.0
	3.	三浦 秀	(南多摩ク)	1:30.3

決 勝

	1.	小 椋 とみ子	(成徳高)	1:27.0
	2.	小 椋 とし子	(成徳高)	1:28.2
	3.	三浦 秀	(南多摩高)	1:28.6
	4.	佐藤 喜美子	(鴨沂會)	1:29.0
	5.	野口 幸子	(相愛高)	1:29.4
	6.	佐竹 富美子	(東洋レ)	1:30.0

100米 平 泳

豫 選 (5着迄入選)

A	1.	大石 康子	(山城高)	1:33.2
	2.	福井 榮	(松蔭女學)	1:34.2
	3.	濱田 多喜子	(下田北高)	1:39.0
	4.	川島 葉子	(立野高)	1:41.0
	5.	芳川 順子	(神戸大丸)	1:43.0
B	1.	高野 博子	(伏見高)	1:37.4

	2.	鈴木文代	(稻生澤中)	1:38.6		4.	餘語和枝	(梶山高)	3:36.0
	3.	村上桂子	(吳精華高)	1:41.2		5.	立花文子	(成城高)	3:36.0
	4.	壘谷良子	(武庫川學)	1:42.6	B	1.	福井榮	(松蔭女學)	3:22.2
	5.	佐藤道子	(武藏高)	1:43.6		2.	大石康子	(山城高)	3:24.0
C	1.	大野敦子	(南多摩高)	1:33.8		3.	秋田ちづ子	(福岡中央)	3:24.2
	2.	秋田ちづ子	(福岡中央)	1:38.8		4.	濱田多喜江	(下田北高)	3:28.6
	3.	木梨あさ	(梶山大)	1:39.8		5.	木梨あさ	(梶山大)	3:31.2
	4.	立花文子	(成城高)	1:40.6	C	1.	大野敦子	(南多摩高)	3:16.6
	5.	餘語和枝	(梶山高)	1:40.8		2.	鈴木文代	(稻生澤中)	3:33.4

準決勝 (4着迄入選)

A	1.	大野敦子	(南多摩高)	1:34.0
	2.	福井榮	(松蔭女學)	1:36.8
	3.	秋山ちづ子	(福岡中央)	1:38.4
	4.	濱田多喜江	(下田北高)	1:39.2
B	1.	大石康子	(山城高)	1:33.8
	2.	高野博子	(伏見高)	1:37.8
	3.	鈴木文代	(稻生澤中)	1:37.8
	4.	立花文子	(成城高)	1:38.8

準決勝 (4着迄及最優5着入選)

A	1.	福井榮	(松蔭女學)	3:20.2
	2.	高野博子	(伏見高)	3:21.6
	3.	大石康子	(山城高)	3:22.2
	4.	木梨あさ	(梶山大)	3:29.2
	5.	餘語和枝	(梶山高)	3:30.4

(最優5着)

B	1.	大野敦子	(南多摩高)	3:19.2
	2.	秋田ちづ子	(福岡中央)	3:25.0
	3.	鈴木文代	(稻生澤中)	3:25.6
	4.	濱田多喜江	(下田北高)	3:30.0
	5.	壘谷良子	(武庫川學)	3:36.4

決勝				
1.	大石康子	(山城高)	1:32.0	
2.	大野敦子	(南多摩高)	1:33.6	
3.	福井榮	(松蔭女學)	1:35.4	
4.	秋田ちづ子	(福岡中央)	1:35.6	
5.	高野博子	(伏見高)	1:36.2	
6.	鈴木文代	(稻生澤中)	1:38.2	

決勝

1.	大野敦子	(南多摩高)	3:17.2
2.	大石康子	(山城高)	3:18.4
3.	高野博子	(伏見高)	3:23.6
4.	福井榮	(松蔭女學)	3:26.4
5.	秋田ちづ子	(福岡中央)	3:27.8
6.	鈴木文代	(稻生澤中)	3:29.4

200米平泳

豫選 (5着迄入選)

A	1.	高野博子	(伏見高)	3:30.8
	2.	壘谷良子	(武庫川學)	3:35.0
	3.	村上桂子	(吳精華高)	3:35.2

全米男子戶外水泳選手権兼日米對抗豫選會

全米戶外男子水上選手権大會は7月20日から3日間シ
アトルで行われた。この結果で日米對抗のアメリカ代表
選手を選んだわけで、高飛込だけはこの大會の前にロス
アンゼルスで行われた。プールは55ヤードで、このため
通常米制で行われるこの大會はヤード制で舉行された。
マーシャルは、1マイル、880、440、3種目に優勝し

1マイル、880は世界新記録を出した。彼はこの成績で
個人最高記録18點で第一位となり、また彼のニューヘヴ
ン水俱は65點をかせぎ大勝した。

この大會で始めて名を知られたフオード・コンノは1
マイル、880で二着となり、兩レースに彼も世界新記録
をつくつた。

220 自由形でマツクレーンの勝ちぶりはすばしく、2分10秒5のアメリカ新記録で優勝しており、440でもマーシャルにつき二位となり、このレースでコンノはムーアと3位争いに接戦を演じ三着となつた。

110背泳、220平泳とも来日した各三選手は非常な接戦をやり甲乙のない力を示した。

背泳は1着と3着の差0秒3、平泳は0秒8である。

△110ヤード自由形 ①リヤード・クリーヴランド(ハワイ大) 58秒2 アメリカ新 ②クラーク・スコルズ(ミシガン州大) 59秒3 ③ロナルド・ゴラ(レーク・ショアーニシカゴ) 59秒8 ④ボツブ・ガイブ(デトロイトAC) 59秒8 ⑤ドイツク・トーマン(コカ・コラ) 60秒5 ⑥ドン・シエフ(ニューヘヴン水俱) 59秒8 ⑦ギルバート(テキサス大) 60秒4 ⑧ジェイムス・ジョーンズ(無所属) 1分1秒4

△220ヤード自由形 ①ジェイムス・マツクレーン(ニューヘヴン水俱) 2分10秒5 ②ウエイン・ムーア(ニューヘヴン水俱) 2分11秒1 ③ロナルド・ゴラ(レーク・ショア) 2分13秒7 ④ウイリアム・ヒュースナー(シカゴ・タウン・ク) 2分14秒1 ⑤ウオリ・ウルフ(無所属) 2分14秒6 ⑥ジェイムス・トーマス(ノースカロライナ大) 2分14秒9 ⑦エドワード・ギルバート(テキサス大) 2分15秒9 ⑧ドン・シエフ(ニューヘヴン水俱) 2分18秒2

△440ヤード自由形 ①ジョン・マーシャル(ニューヘヴン水俱) 4分39秒3 (アメリカ新) ②ジム・マツクレーン(ニューヘヴン水俱) 4分42秒8 ③ウエイン・ムーア(ニューヘヴン水俱) 4分43秒9 ④フォード・コンノ(ヌーアヌ) 4分43秒8 ⑤ウイリアム・ヒュースナー(シカゴ・タウン・ク) 4分50秒3 ⑥ウオリ・ウルフ(無所属) 4分53秒8 ⑦ラルフ・サラ(無所属) 4分53秒9 ⑧マーチン・スミス(ニューワークAC) 5分01秒5

△880ヤード自由形 ①ジョン・マーシャル(ニューヘヴン水俱) 9分37秒5 ②フォード・コンノ(ヌーアヌ) 9分54秒1 (以上世界新) ③ジム・マツクレーン(ニューヘヴン水俱) 10分01秒1 ④ウエイン・ムーア(ニューヘヴン水俱) 10分3秒8 ⑤ウイリアム・ヒュースナー(シカゴ・タウン・ク) 10分5秒4 ⑥ラルフ・サラ(無所属) 10分13秒3 ⑦バーエル・ジョーンズ(チョコピ・キャンプ) 10分14秒7 ⑧ピーター・コール(カリフォルニア水俱) 10分29秒6

△1マイル自由形 ①ジョン・マーシャル(ニューヘヴン水俱) 20分17秒6 ②フォード・コンノ(ヌーアヌ)

20分17秒8 (以上世界新) ③バーエル・ジョーンズ(チョコピ・キャンプ) 20分49秒7 ④ラルフ・サラ(無所属) 21分4秒8 ⑤ピーター・コール(カリフォルニア水俱) 21分24秒2 ⑥ジム・ポートランス(オーシャンフォールス水俱) 21分31秒8 ⑦ウエストウエル・ギルバート(オーシャンフォールス水俱) 21分53秒4 ⑧エドワード(マルトノマAC) 22分51秒9

△220ヤード平泳 ①ロバート・ブローナー(プリンストンAC) 2分41秒0 (アメリカ新) ②ボウエン・スタスフォース(アイオワ大) 2分41秒3 ③デニス・オカナー(ニューワークAC) 2分41秒8 ④ジョー・ステピンス(オリンピック・クラブ) 2分47秒1 ⑤マツク・フオール(ミシガンAC) 2分58秒3 ⑥ロバート・マツツオン(ワーセスター・ボーイスクラブ) 2分58秒4 ⑦ウイリアム・ロス(カリフォルニア水俱) 2分59秒2 ⑧ロバート・ベスト(カリフォルニア水俱) 2分59秒9

△110ヤード背泳 ①アレン・スタツク(ニューヘヴン水俱) 1分8秒2 ②リチャード・ソーマン(コカ・コラ) 1分8秒5 ③ジェームス・トーマス(ノースカロライナ大) 1分8秒5 ④ドイツク・フェツターマン(コカコラ) 1分8秒8 ⑥オヤカワ・ヨシノブ(ヒロ) 1分9秒4 ⑥ドレーヴス(アイオワ州大) 1分9秒9 ⑦コツクス・ヘツド(ニューヨークAC) 1分11秒2 ⑧リチャード・クリーヴランド(ハワイ大) 1分14秒6

△330ヤード個人メドレー ①ジェームス・トーマス(ノース・カロライナ大) 3分55秒1 (アメリカ新) ③ウルフ(無所属) 4分2秒1 ③マツツオン(ワーセスター・ボーイスクラブ) 4分3秒8 ④ヨシノブ・テラダ(ヒロAC) 4分6秒5 ⑤ロス(カリフォルニア水俱) 4分14秒3 ⑥ステイツクニー(コカコラ) 4分15秒1

△330ヤードメドレー ①コカコラ(フェツターマン、ソール、ソーマン) 3分19秒4 ②アイオワ大 3分22秒2 ③ニューヘヴン水俱 3分25秒8 ④ヒロAC 3分26秒5 ⑤カリフォルニア水俱B 3分26秒8 ⑨カリフォルニア水俱A 3分31秒5

△880ヤードリレー ①ニューヘヴン水俱(マツクレーン、シエフ、ムーア、マーシャル) 9分7秒0 (アメリカ新) ②コカコラA 9分19秒5 ③カリフォルニア水俱 9分28秒2 ④ワシントンAC・A 9分43秒2 ⑤コカコラB 10分24秒8 ⑥ワシントンAC・B 11分14秒6

△飛板飛込 ①ジョー・マリノ(オハイオ州大) 142.35 (14頁に續く)

早慶對抗水上競技大會

高 橋 弘

六月五日恒例の第二十二回早慶對抗水上競技會はシーズンの劈頭を飾つて十六時三十分神宮プールで舉行!

水温二十一度、気温二十五・五度、選手には少し冷たいプールコンディションだったが、早大は百米、二百米自由形を慶大の上杉に奪われたのみで他の種目に全勝し昭和十三年(慶大主將小池禮三)に一敗したのみで二十一勝一敗と云う好成績を納めて快勝した。

試合前に降り續いた雨で兩校とも最適のコンディションに持つて行けなかつたと云う悪条件はあつたけれど、兩軍共猛練習を積んだ形跡顯著で如何は早慶戦に心身を打込んでるかを如實に物語るものである。

特に兩校共新人の活躍が目止まり、本年度の全日本水上戦或は日米對抗戦等の期待は楽しみであるとする氣持を水泳人と共に喜ぶ次第である。

△四百米 最初のレース四百米の出来不出来は、直接制覇に密接な影響を及ぼすので兩軍共に精銳をすぐり「この一戦」とねらつた早大の田中純夫は、よくこの興望に應えて、悠々と一着をしめて早大に幸先よいスタートを切つた。

慶大新人吉岡百米のラップ一分四秒四でリードを奪い四コース田中純夫をリードし、之は凄いと思わせたが、二百米に於ては田中は巧みなストロークでよくのび、吉岡、藤野を奪い返し、其の後はストローク毎に確實にかくと云う落付いた泳ぎぶりで、三百五十米のターンからは藤野との差を六メートル離してゴールイン、四分五十一秒〇と云うシーズン初めとしては好記録にて優勝す。新人田中寧夫(早大)及吉岡清吉(慶大)共に泳ぎとしては立派なもの大いに練習を望む!

- 一着 田中 純夫(早大) 四分五十一秒〇
- 二着 藤野 賢三(早大) 四分五十四秒二
- 三着 田中 寧夫(早大) 四分五十九秒二
- 四着 杉浦 貞夫(慶大) 五分〇一秒二
- 五着 松岡 信義(慶大) (五分〇五秒四)
- 六着 吉岡 清吉(慶大) (五分十一秒八)

△百米自由形 短距離上杉(慶大)が老巧さを發揮して六十一秒四にて樂勝、二位小池も記録的にはかんばしくなかつたが、老巧さを示して早大を壓したのは見事だつた。

- 一着 上杉猛(慶大) 一分〇一秒四

- 二着 小池 哲雄(慶大) 一分〇二秒二
- 三着 谷口 繁男(早大) 一分〇三秒〇
- 四着 柳本 隆(早大) 一分〇三秒〇
- 五着 大奥 兵一(慶大) (一分〇三秒六)
- 六着 浪花 欣吾(早大) (一分〇四秒〇)

△二百米自由形 長距離の田造(早大)が二百米に廻り慶大陣に對抗したが、老巧上杉(慶大)二分十八秒六に奪われ二着となつたが、新人杉原(早大)と共に精進を望む。

- 一着 上杉 猛(慶大) 二分十八秒六
- 二着 田造 勝美(早大) 二分二十秒八
- 三着 杉原 滿弘(早大) 二分二十秒八
- 四着 小池 哲雄(慶大) 二分二十秒八
- 五着 柳本 隆(早大) 二分二十一秒六
- 六着 松本 弘(慶大) 二分二十三秒〇

△千五百米 四百米同様兩校共同一選手にて對抗八百米リレーの爲のセーブか最初のとび出し悪く松岡(慶大)一分十秒にてラップを奪い、三百米邊りから藤野、田中純、田中寧(早大)共に一緒になり慶大陣に約三ストロークおくれ、四百米邊りから藤野と田中の接戦となり、八百米邊りより杉浦(慶大)田中(早大)の接戦となり、千米邊りから完全に藤野の獨泳となり、田中の追泳も及ばず藤野の勝となつた。三着をねらう田中、杉浦の接戦、凄く田中は實力を十分發揮出来なかつたけれど三着を奪い、早大長距離陣の完勝に終つた。

- 一着 藤野 賢三(早大) 一分四十五秒八
- 二着 田中 純夫(早大) 一分五十五秒二
- 三着 田中 寧夫(早大) 二十分十秒四
- 四着 杉浦 貞夫(慶大) 二十分十一秒〇
- 五着 吉岡 清吉(慶大) (二十分四十六秒二)
- 六着 松岡 信義(慶大) (二十分四十九秒六)

△百米背泳

好調を伝えられた待鳥(早大)白井(慶大)の一騎打も五十米迄は水にのらず、新人芦田(早大)に奪はれ、七十米あたりから待鳥、白井共にぐんぐん出て強引なストロークで待鳥は白井を大きく離してゴール前では三ストロークの差を付け樂勝した。

- 一着 待鳥 啓三(早大) 一分十二秒〇
- 二着 白井 孝(慶大) 一分十三秒〇

- 三着 中島 雅好 (早大) 一分十三秒〇
- 四着 芦田 拓郎 (早大) 一分十三秒六
- 五着 赤樫 卓爾 (慶大) (一分十四秒六)
- 六着 和氣 壽彦 (慶大) (一分十四秒八)

△二百米平泳

新人長澤 (早大) 清水 (慶大) 老巧匠 (早大) 關根 (早大) の對戦が興味一段と増し初められたが、長距離を泳いでいた長澤にバタフライ泳法の使用は完全に成功老巧匠、關根を抑えて優勝したのは見事だつた。五十米邊り迄匠、關根、長澤、清水猛烈な競い、七十五米あたりから早大長澤調子よく飛び出して百米一分二十二秒、バタフライとしては少しおそすぎるペースで入りとても二百米は二分五十秒は切れまいと思つていたが、さすが長距離泳者だけあつてオーソドックスで追う匠、關根、バタフライの清水を退け、二分四十九秒〇の好記録にて優勝した。

- 一着 長澤 二郎 (早大) 二分四十九秒〇
- 二着 匠 賢一 (早大) 二分五〇秒六
- 三着 清水 敏夫 (慶大) 二分五十二秒二

- 四着 關根善二郎 (早大) 二分五十五秒〇
 - 五着 折井孝二郎 (慶大) (三分〇二秒四)
 - 六着 吉原 享 (慶大) (三分〇三秒二)
- △八百米リレー 最後の八百米リレーも早大が壓倒的強味を發揮して慶大を碎き勝利を得た。

メンバーから云えば必ずや新記録が出るのではないかと楽しみに待つていたが、早大の田中純夫調子悪く九分二十五秒六に終つたのは残念だつた。

- 一着 早大 九分二十五秒六 田中純、田中寧、田造、藤野
- 二着 慶大 九分三十二秒〇 小池、杉浦、松本、上杉

結局十七點の大差を持つて早大の勝利に終つたが、兩校とも將來を約束出来る有望な素質を持つ新人の台頭は實に楽しみである。

特に自由形の田中寧 (早大)、吉岡 (慶大)、平泳の長澤、清水、背泳の芦田、中島、和氣等今後の活躍は楽しみだ。

第 15 回

明、立、日三大學對抗水上競技大會

昭和 25 年 6 月 12 日 神宮プール (50米) 公認
(氣温 25°) (水温 21°)

100 米 自由形

- 1. 濱 口 喜 博 (日 大) 58.6
- 2. 眞 木 昌 (日 大) 59.6
- 3. 丸 山 茂 幸 (日 大) 60.2
- 4. 仲 村 武 平 (立 大) 1:01.0
- 5. 西 擴 (明 大) 1:02.8
- 6. 伊 海 連 作 (明 大) (1:03.2)

200 米 自由形

- 1. 濱 口 喜 博 (日 大) 2:11.0
- 2. 東 昇 (日 大) 2:14.0
- 3. 丸 山 茂 幸 (日 大) 2:14.6
- 4. 西 擴 (明 大) 2:18.0
- 5. 仲 村 武 平 (立 大) 2:18.8
- 6. 池 本 與 吉 (明 大) (2:22.4)

400 米 自由形

- 1. 古 橋 廣 之 進 (日 大) 4:44.2
- 2. 東 昇 (日 大) 4:46.2
- 3. 本 山 昇 平 (日 大) 4:55.4

- 4. 川 口 義 和 (明 大) 4:53.0
- 5. 林 法 生 (明 大) (5:05.0)
- 6. 植 月 弘 次 (明 大) (5:06.0)

800 米 自由形

- 1. 橋 爪 四 郎 (日 大) 9:57.0
- 2. 川 畑 彌 (日 大) 10:06.2
- 3. 川 口 義 和 (明 大) 10:09.0
- 4. 本 山 昌 平 (日 大) 10:24.6
- 5. 林 法 生 (明 大) (10:36.2)
- 6. 植 月 弘 次 (明 大) (10:45.4)

100 米 背 泳

- 1. 宮 部 修 (日 大) 1:14.0
- 2. 宮 田 春 雄 (日 大) 1:14.0
- 3. 木 部 俊 之 (明 大) 1:14.8
- 4. 榎 谷 周 二 (日 大) 1:14.8
- 5. 伊 藤 功 (明 大) (1:16.8)
- 6. 宮 田 房 道 (明 大) (1:20.0)

200 米 平 泳

- 1. 萩 原 孝 男 (日 大) (バ) 2:44.6
- 2. 下 坂 篤 (日 大) 2:48.0
- 3. 宇 田 久 壽 秀 (日 大) 2:50.0
- 4. 山 田 芳 美 (立 大) (バ) 2:51.0

5. 杉山 祐三 (立大) (2:53.2)
 6. 原 茂樹 (立大) (2:59.4)

2. 山本 速水 (關) 1:14.2
 3. 芦田 拓郎 (早) 1:14.4

800米リレー

1. 橋爪、東橋 (日大) 8:57.8
 2. 西、植川月口 (明大) 9:24.4

200米背泳

1. 待鳥 啓三 (早) 2:39.6
 2. 山本 速水 (關) 2:43.0
 3. 正村 孝司 (早) 2:44.2

200米正式計時 橋爪 (日大) 2:15.8

3. 鈴木、田中村 (立大) 9:51.8
 鈴井上、仲村

100米平泳

1. 藤岡 達昂 (早) (バ) 1:16.0
 2. 飯田 俊太郎 (早) (バ) 1:18.2
 3. 匠 賢一 (早) 1:21.4

300米メドレリレー

1. 上村、萩原、真木 (日大) 3:27.0
 2. 木部、井上、西 (明大) 3:33.6
 3. 信定、山田、仲村 (立大) 3:35.2

200米平泳

1. 梶川 孝義 (早) 2:48.8
 2. 匠 賢一 (早) 2:53.2
 3. 手塚 政一 (關) 2:56.4

得点

1. 日本大學 112
 2. 明治大學 33
 3. 立教大學 13

800米リレー

1. 田中(寧) 田中(純) (早) 9:44.4
 藤野、柳本
 2. 樋口、沖 (關) 10:22.4
 山本、豊岡

早稻田—關西學院

定期對抗水上競技大會

昭和25年6月11日 甲子園プール(50米) 公認

300米メドレー

1. 待鳥、藤岡、谷合 (早) 3:31.4
 2. 山本、右手、樋口 (關) 3:38.2

100米自由形

1. 浪花 欣吾 (早) 1:02.8
 2. 樋口 清治 (關) 1:03.2
 3. 谷合 繁男 (早) 1:04.0

第1回

關東高等學校選手権水上競技大會

昭和25年6月25日 館山市営プール(50米) 公認

(氣温 25°) (水温 25°)

200米自由形

1. 柳本 隆 (早) 2:22.6
 2. 浪花 欣吾 (早) 2:24.0
 3. 樋口 清治 (關) 2:24.4

100米自由形

1. 青山 幸郎 (成蹊高) 1:02.8
 2. 吉岡 清吉 (慶應高) 1:03.4
 3. 杉原 満弘 (早稻田高) 1:03.8
 4. 磯垣 孝 (安房一高) 1:07.0
 5. 中山 正夫 (宇都宮高) 1:09.4
 6. 藤田 達也 (身延高) 1:11.0

400米自由形

1. 田中 純夫 (早) 4:57.8
 2. 田中 寧夫 (早) 5:00.2
 3. 藤野 賢三 (早) 5:03.6

800米自由形

1. 田中 寧夫 (早) 10:20.2
 2. 田中 純夫 (早) 10:21.4
 3. 藤野 賢三 (早) 10:25.2

200米自由形

1. 吉岡 清吉 (慶應高) 2:21.0
 2. 杉原 満弘 (早稻田高) 2:22.0
 3. 青山 幸郎 (成蹊高) 2:28.6
 4. 庄司 義弘 (安房一高) 2:31.4
 5. 磯垣 孝 (安房一高) 2:32.6

100米背泳

1. 待鳥 啓三 (早) 1:13.2

6. 宮地政彦 (攻玉社高) 2:39.8

5. 池田瀧郎 (安房一高) 6:35.2

6. 齋藤利一 (慶應高) 6:37.6

400米自由形

1. 松岡信義 (慶應高) 5:01.2

2. 庄司政雄 (安房一高) 5:06.6

3. 本宮壽之 (慶應高) 5:07.8

4. 庄司義弘 (安房一高) 5:24.0

5. 仙葉智章 (成蹊高) 5:34.8

6. 佐藤守男 (宇都宮高) 5:34.8

800米自由形

1. 松岡信義 (慶應高) 10:33.8

2. 庄司政雄 (安房一高) 10:42.2

3. 本宮壽之 (慶應高) 10:43.8

4. 粕谷保 (安房一高) 11:14.2

5. 仙葉智章 (成蹊高) 11:53.8

6. 松川光信 (日大三高) 12:04.6

1000米背泳

1. 中島雅好 (早稻田高) 1:13.4

2. 和氣壽彦 (慶應高) 1:15.0

3. 大久保憲二 (逗子開成) 1:16.6

4. 野山守 (安房一高) 1:18.6

5. 益田宗 (日比谷高) 1:19.6

6. 石鍋有康 (藏前工高) 1:21.2

2000米背泳

1. 和氣壽彦 (慶應高) 2:39.6

2. 大久保憲二 (逗子開成) 2:39.8

3. 中島雅好 (早稻田高) 2:41.2

4. 野山守 (安房一高) 2:51.2

5. 益田宗 (日比谷高) 2:57.2

6. 西川愼二 (慶應高) 2:58.8

2000米平泳

1. 梶川孝義 (早稻田高) 2:52.0

2. 尾崎好孝 (松山高) 3:00.2

3. 池田瀧郎 (安房一高) 3:00.6

4. 中島毅 (日大三高) 3:04.2

5. 澤卓二 (立川高) 3:05.4

6. 石井泰三 (安房一高) 3:07.2

4000米平泳

1. 梶川孝義 (早稻田高) 6:05.0

2. 尾崎好孝 (松山高) 6:24.2

3. 中島毅 (日大三高) 6:30.4

4. 松永辰一 (慶應高) 6:34.8

100米バタフライ

1. 清水敏夫 (慶應高) 1:12.6

2. 長澤二郎 (早稻田高) 1:20.0

3. 黒川孝吉 (安房一高) 1:20.3

4. 北澤軍治 (日比谷高) 1:21.4

5. 布瀬宥 (逗子開成) 1:23.0

6. 小泉喜嗣 (湘南高) 1:23.0

200米バタフライ

1. 清水敏夫 (慶應高) 2:48.6

2. 長澤二郎 (早稻田高) 2:56.6

3. 黒川孝吉 (安房一高) 3:09.6

4. 北澤軍治 (日比谷高) 3:12.0

5. 梅澤昌夫 (立川高) 3:17.0

6. 永直泳作 (立川高) 3:23.4

200米リレー

1. 和本氣宮、吉岡 (慶應高) 1:55.2

2. 磯庄司、粕谷 (安房一高) 1:56.4

3. 杉中、原、高澤 (早稻田高) 2:01.2

4. 深佐、井、仙葉山 (成蹊高) 2:03.0

5. 森新、本、山抱 (逗子開成) 2:06.8

6. (立川高) 2:07.0

800米リレー

1. 和本氣宮、吉岡 (慶應高) 9:38.0

2. 粕谷、井、庄司 (安房一高) 10:07.8

3. 杉中、原、富澤 (早稻田高) 10:13.0

4. 深佐、井、泉田 (成蹊高) 10:43.0

5. 佐水、木、富澤 (浦和高) 11:12.0

6. 丸齋、山、小松 (日大三高) 11:17.4

得点

1. 慶應高 (79) 2. 安房一高 (55)

3. 早稻田高 (52) 4. 成蹊高 (21)

5. 逗子開成 (13) 6. 日比谷高 (10)

7. 松山高 (10) 8. 日大三高 (9)

東京・横濱・八王子・伊東
四都市女子對抗水上競技大會

昭和25年6月25日 野毛山プール(50米)公認
(気温 27°) (水温 21°3)

50米自由形

1. ジュリーフランク (東京) 36.0
2. 高橋美恵子 (八王子) 36.4
3. 青木照子 (伊東) 36.8
4. 太田教子 (八王子) 36.8
5. 北澤敏子 (伊東) 36.8

100米自由形

1. 高橋美恵子 (八王子) 1:23.0
2. 保見紀子 (東京) 1:23.4
3. 太田教子 (八王子) 1:25.2
4. 北澤敏子 (伊東) 1:25.6
5. 青木照子 (伊東) 1:28.8

200米自由形

1. 安部佐和子 (伊東) 2:55.6
2. 塚本千賀子 (八王子) 2:56.0
3. 保見紀子 (東京) 3:03.8
4. 鈴木慶子 (伊東) 3:08.0
5. 山中宏子 (横濱) 3:24.2

400米自由形

1. 安部佐和子 (伊東) 6:11.6
2. 塚本千賀子 (八王子) 6:26.8
3. 鈴木慶子 (伊東) 6:36.6
4. 山中宏子 (横濱) 7:12.2
5. 菊間君江 (東京) 7:52.4

50米背泳

1. 小椋とみ子 (東京) 40.8
2. 小椋とし子 (東京) 40.8
3. 三浦秀 (八王子) 41.8
4. 石井喜美子 (伊東) 45.2
5. 太田靖子 (伊東) 45.6

100米背泳

1. 小椋とみ子 (東京) 1:22.6
2. 小椋とし子 (東京) 1:29.8
3. 三浦秀 (八王子) 1:31.6
4. 石井喜美子 (伊東) 1:40.0
5. 太田靖子 (伊東) 1:46.2

100米平泳

1. 大野敦子 (八王子) 1:32.2

2. 川島葉子 (横濱) 1:40.8
3. 太田はるみ (横濱) 1:43.2
4. 佐藤道子 (東京) 1:43.2
5. 鳥居文子 (伊東) 1:44.0

200米平泳

1. 大野敦子 (八王子) 3:17.8(大會新)
2. 川島葉子 (横濱) 3:37.2
3. 佐藤道子 (東京) 3:41.0
4. 田井黎子 (八王子) 3:42.6
5. 井原佳子 (伊東) 3:43.0

200米リレー

1. 保見、小椋(とし) (東京) 2:26.6
2. 太塚、田、高、橋 (八王子) 2:28.2
3. 青木、鈴木 (伊東) 2:32.6
4. 加藤、藤、佐、藤 (横濱) 2:58.2

300米ドレー

1. 三浦、大野、高橋 (八王子) 4:24.0
2. 小椋、佐藤、保見 (東京) 4:37.8
3. 石井、井原、安部 (伊東) 4:45.0
4. 平尾、太田、佐藤 (横濱) 5:14.4

得点 1 八王子 63 2 東京 61
3 伊東 51 4 横濱 23

(9頁より続く)

②ブラウニング(テキサス大) 139.46 ③チャールス・チェリツチ(シカゴ・タウン・クラブ) 138.41 ④ハドリツチ(ニューヘヴン水俱) 135.06 ⑤コナー(YブルックAC) 127.13 ⑥マコーミツク(パサデナAC) 119.93

△高飛込 ①ジョン・マコーミツク(パサデナAC) 116.30 ②ヘヤベディアン(カリフォルニア水俱) 103.70 ③ルギアット(カリフォルニア水俱) 99.06 ④ロス(パサデナAC) 98.56 ⑤ハドリツチ(ニューヘヴン水俱) 94.90 トビアン(ロサンゼルスAC) 78.00

△チーム得点 ①ニューヘヴン水俱 65 ②ココロラ 27 ③カリフォルニア水俱 17 ④アイオワ大 12 ⑤ヌーアヌYMCA 10 ⑥ノースカロライナ 9 ⑦パサデナAC 8 ⑧シカゴタウン俱、ヒロAC 7 ⑩レークシヨア俱 6 ⑪プリンストンAA、ハワイ大 6

ブラジル遠征記

遊 佐 正 憲

ブラジルと言へば水泳関係者並に水泳ファンの方々はすぐ、故齋藤巍洋氏を思ひ浮べる事でしょう。水泳を通じて、吾國と關係の深かつた點に於ては、米國に次いでブラジルであらう。

このブラジルより今回の遠征に關して昨年の四月頃より招聘の話があつたのである。

具體的に話が進んだのは、昨年の十月頃であるが、水泳連盟としては昨年の全米選手權に出場した選手の疲勞と、本年八月行なはれる日米對抗の事を考へ合せると、一應辭退する方が賢明だろうとの結論に達したのであるが、其の後の事情により、招聘に應じることになつた。

出發前一週間でも、五日間でも、合宿練習をする豫定であつたが、選手諸君の試験の爲、それも出來ず、二月二十八日羽田を出發したのである。監督としての私は僅か十八日間の練習で試合に出場させた經驗はなかつたのである。

この遠征に於て技術的な面のプラスは無いのであるが、只一九五二年のヘルシンキのオリンピックの事を考へれば、今度の飛行機の遠征が非常に参考になると考へた。

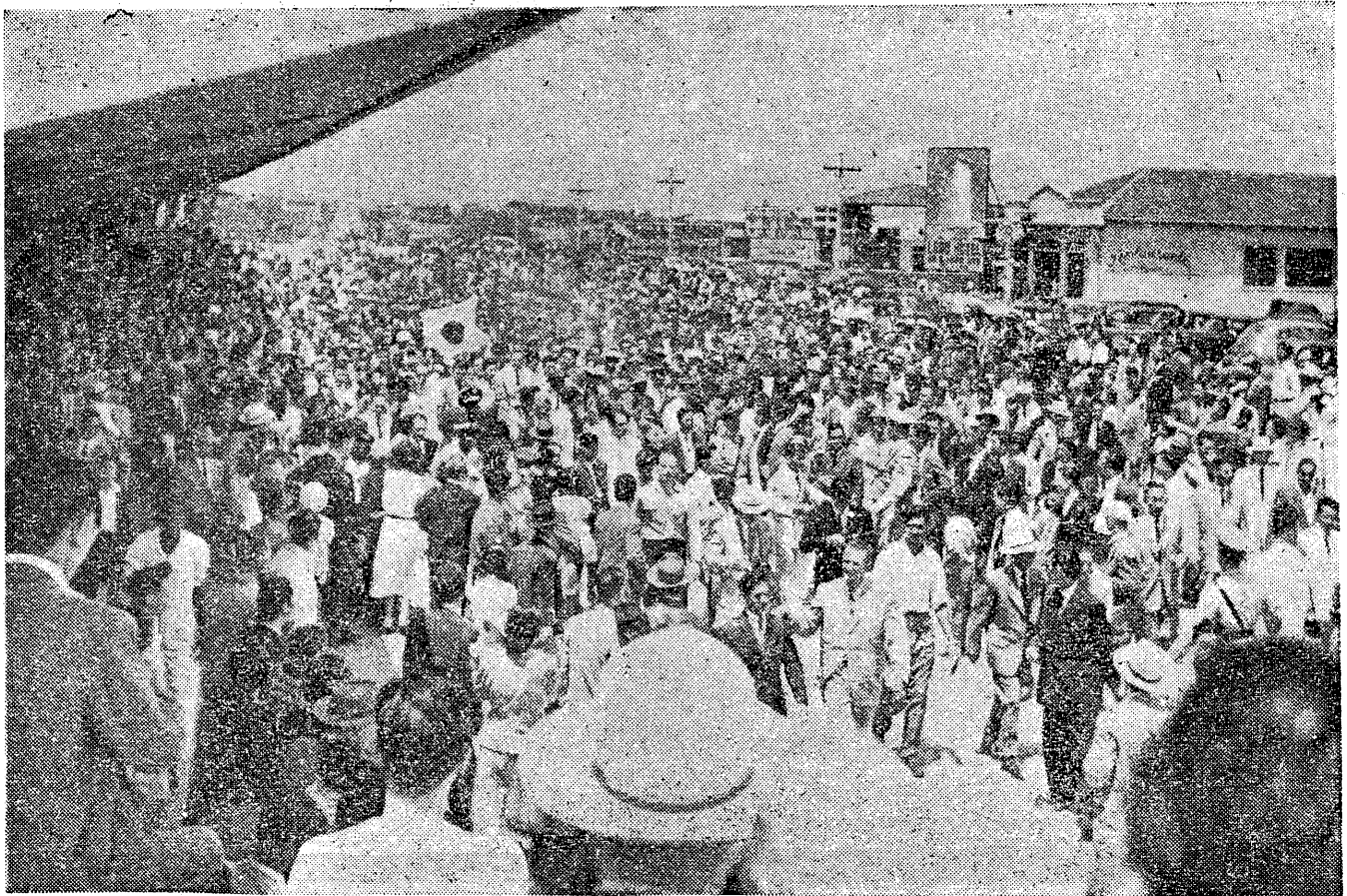
まる四日間の飛行機の旅と、選手のコンデツション、この旅の疲れが完全に抜けるには何日を要するか、或は體重に及ぼす影響等々。

豫定通り羽田を出發した飛行機はウエーキ、ミツドウエー、ハワイを経て昨年の思ひ出の地ロスアンゼルスに二十八日午後十時三十分に着いた。

和田氏夫妻並に在留邦人の出迎へを受けて、旅の疲れを和田氏邸に於て癒すことにする。

和田氏邸に着いたのは十二時近くであつた。吾々の歓迎の意味の心を込めた御馳走が用意されて居た。

思い出の部屋で、そして懐しいベッドで一夜をあかした。



—— 日本水泳選手一行サンパウロ市コンゴニヤ空港到着、「日の丸」で迎える在留邦人、飛行場外より自動車に向ふ選手たち、選手たちは日章旗のそばにいます。——

明れば三月一日午後十一時三十分 TWA 機にてロスを出発、ニューヨークに向ふ。

早朝シカゴに到着した。

飛行場には雪が積つて居る。

昨日のロスの氣候に較ぶれば、餘りにも急激な變化である。

シカゴを出発、二時間後にニューヨークに到着、清水治氏の出迎へを受け、日本人の料理屋都へ向ふ。こゝで歓迎午餐會に出席、この頃より選手諸君の疲勞の色がありありと見へ始めた。

早速ニューヨーク・アスレチック・クラブに向ふ。出発迄ぐつすり眠らせる事にする。

午後十二時三十分最後のコース南米行きパンアメリカ機に乗り込む。

サンジャン、ポートオブスペイン、バレンを経て、三月四日午前十時三十分首都リオデジャネイロに到着。

十年前とは大分變つて居る。常夏の國らしい並木路がつづく。

數十名の新聞記者、カメラマン、放送局の矢繼早な波状攻撃を受ける。

やつとの思ひで、特別仕立のサンパウロ行きブラジル機に乗り換へる。

後一時間二十分で目的地である。

サンパウロでの出迎への人は大變だとの事、遠くにサンパウロ市が見へ出す。

日本出發四日目に着くとは云へ遠い所へ來たと言ふ感じである。

機は大きく旋回して、機首を下した。

いよいよサンパウロ、コンゴニヤ飛行場である。一步機外へ出れば人の波で大變である。一行はスクラムを組んでやつとの思ひで自動車に分乗、吾等の宿舍大河内邸に向つた。

ブラジル滞在中寢起をする吾々の部屋は、十疊二間と四疊、二疊、それから洗面室のある離れである。これに

日本式の疊を敷きつめ、吾々の身長に合はせた、夏蒲團迄用意してある。

食事の方は、常盤ホテルの主人石原氏が擔當して、吾々にうんと精力を着けようと言ふお話である。

三月五日、今日から練習開始である。

試合迄僅か十八日。

選手諸君も張り切つて居る。

最初は水に、なれる意味に於て、長距離を泳がせる。

午前の練習は十時宿舍出發、十時半練習開始、約一時間半の練習を行ひ、午後は四時宿舍出發、四時半開始、これも約一時間半から二時間程度である。その他の生活はのんびりとやつた。只外出は絶対禁止である。

一週間ぐらひから、ぼつぼつ水に乗り始めた。この調子で行けば豫定通りだ。

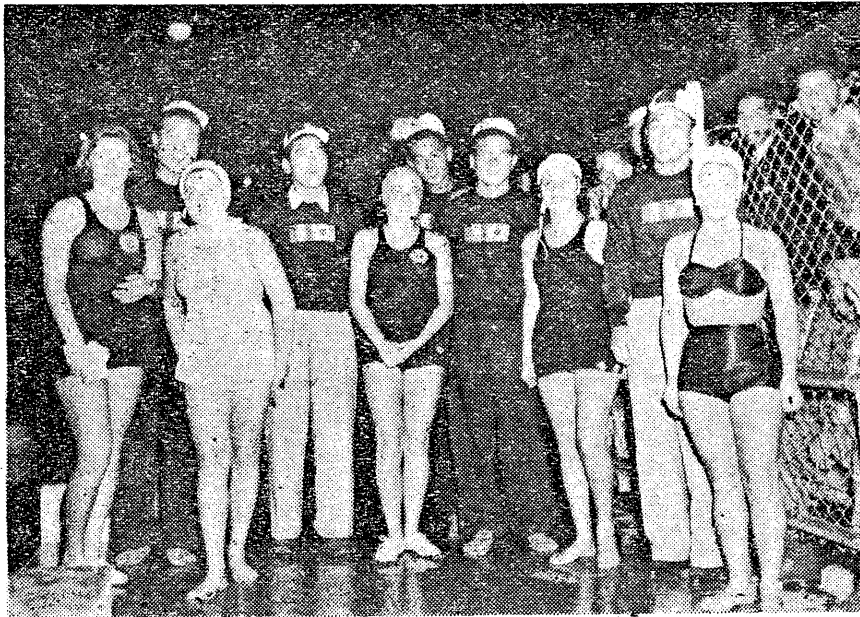
十八日間の練習によつて、一應の調子を作つたのである。この調子

は無論、満足すべきものではなかつたが、全伯選手權大會に於ては大體左記の様な程度の記録を出し得たのである。

100米	濱口	59.1
200米	村山	2:16.5
"	濱口	2:11.2
400米	古橋	4:40.5
"	橋爪	4:50.0
800米	古橋	9:58.0
"	橋爪	10:18.5
1500米	古橋	19:23.8
"	橋爪	19:25.2

練習開始後一ヶ月目にマリーヤの試合にぶつゝかつたわけである。二十五米のプールとはいへ、選手諸君の頑張りによつて、八百米リレーに八分四十秒六、四百米に古橋が四分三十二秒六と言ふ世界記録を樹立したのである。

この世界記録を作り上げたと言ふ事も、選手諸君の努力は勿論であるが、裏面に在留邦人の吾々に無條件に協



(寫眞はプール際)

力して呉れた事と、歓迎委員の一人々々が眞剣に吾々の

力になつて呉れた事を銘記せねばならない。

ブラジル遠征中の日本選手成績

ブラジル選手権

サンパウロ市 パカエンブ・プール (50米)

23日

100米自由形

1. 濱口 善 博 (日 本) 59.1
2. セルギ・ロドリゲス 1:01.3
3. アラン・ボゴシアン (リオデジャネイロ) 1:01.3

400米自由形

1. 古橋 廣之進 (日 本) 4:40.5
2. 橋爪 四 郎 (日 本) 4:50.0
3. 岡本 テ ッ オ (サンパウロ) 5:08.5

24日

800米自由形

1. 橋爪 四 郎 (日 本) 10:18.5

200米自由形

1. 村山 修 一 (日 本) 2:16.9

100米自由形 (エキジビション)

1. 濱口 喜 博 (日 本) 58.7

400米自由形 (エキジビション)

1. 古橋 廣之進 (日 本) 4:47.4

200米リレー

1. 濱口、橋爪、村山、古橋 (日 本) 1:48.9

25日

800米自由形

1. 古橋 廣之進 (日 本) 9:58.0
2. 村山 修 一 (日 本) 10:33.2
3. ゴンサルヴエス (サンパウロ) 10:39.9

800米リレー

1. 濱口、橋爪、村山、古橋 (日 本) 8:59.6
2. (サンパウロ) 9:24.7

26日

400米リレー

1. 村山、橋爪、古橋、濱口 (日 本) 4:00.3
2. (サンパウロ) 4:06.8

200米自由形

1. 濱口 喜 博 (日 本) 2:11.2
2. 村山 修 一 (日 本) 2:16.5
3. 岡本 テ ッ オ (サンパウロ) 2:17.1

1500米自由形

1. 古橋 廣之進 (日本) (南米新記録) 19:23.8
2. 橋爪 四 郎 (日 本) 19:25.2
3. ジョアト・ゴンサルヴエス 20:23.0

マ リ リ ヤ (25米プール)

第1日

800米自由形

1. 古橋 廣之進 (日 本) 10:08.6
2. 橋爪 四 郎 (日 本) 10:12.5

100米自由形

1. 濱口 喜 博 (日 本) 58.1
2. ジョル ダ ン (ブラジル) 1:01.3

第2日

400米自由形

1. 古橋 廣之進 (日 本) 4:35.4
2. 橋爪 四 郎 (日 本) 4:37.1

100米自由形

1. 濱口 喜 博 (日 本) 58.1

800米リレー

1. 日 本 8:43.8

ア ラ テ ウ バ (25米プール)

4日

200米自由形

1. 古橋 廣之進 (日 本) 2:11.4
2. 岡 本 (ブラジル) 1:15.6
3. ボゴシアン (ブラジル) 2:15.8

400米自由形

1. 古橋 廣之進 (日 本) 4:42.2
2. 岡 本 (ブラジル) 5:03.5
3. ケステナー (ブラジル) 5:04.0

100米自由形

1. 濱口 喜 博 (日 本) 59.0
2. ボゴシアン (ブラジル) 59.8

3. ジョルダシ (ブラジル) 60.7

800米自由形

1. 濱口・古橋・村山・橋爪 (日本) 8:50.4

リオデジヤネイロ (50米プール)

8 日

1. 濱口 喜博 (日本) 2:12.0

2. 村山 修一 (日本) 2:14.6

3. ポゴシアン (伯) 2:16.3

400米自由形

1. 古橋 廣之進 (日本) 4:53.8

2. 橋爪 四郎 (日本) 4:59.0

3. ゴンザルヴェ (伯) 5:03.0

9 日

100米自由形

1. 濱口 喜博 (日本) 59.7

800米自由形

1. 古橋 廣之進 (日本) 10:24.0

2. 橋爪 四郎 (日本) 10:27.0

リマ市民プール (50米プール)

26 日 (日エキジビション)

800米自由形

1. 橋爪 四郎 (日本) 10:10.7

200米自由形

1. 村山 修一 (日本) 2:18.0

100米自由形

1. 濱口 喜博 (日本) 58.4

300米自由形 (獨泳)

1. 古橋 廣之進 (日本) 3:27.3

400米自由形

1. 橋爪 四郎 (日本) 4:47.3

200米自由形

1. 村山 修一 (日本) 2:21.6

100米自由形

1. 濱口 喜博 (日本) 58.8

2. ゲンゾレン (ペルー) 1:03.9



— 昨年全米水泳選手権に出場し優勝した東京クラブに寫眞のような賞状が氷連に送られて来た。 —

スターター十年、雑考

新 穂 榮 藏

十年一昔と云われるが、あれから十年過ぎた。昭和十五年の秋、支那事變酬にして、軍部の黒い手がスポーツの正道にそろそろ横車を押しかけて来た頃のインターカレッジに、當時軍閥の使役でやつと外出が自由になつた僕は、二年近くも水泳競技會を見てゐなかつたので、たまらなくなつて神宮プールに出かけた。その頃は役員も應召や出征、入營等でひどく不足して居たので、そこに私が現れると田畑さんは例の調子で、

「キミキミ、キミ兵隊さんだから號令をかけるのはうまいんだらう、一つ鐵砲を打つてくれよキミ。」

これがそもそも僕が鐵砲屋になつた動機である。

それまで僕は専らタイマーをやつてゐた。稀には審判もやつたが大體タイマーだつた。あの頃は飯田光太郎さん（通稱ピカさん）や、地震博士の石本さんが元氣で居られた當時で兩氏は、意地の悪い舅が嫁の箸のあげおろしに小事を云ふ様に、時計のにぎり方、押す筋肉、骨の位置、押し方、計時中の保持法、針の見方、その他モロモロの御注意を、心理學的に又物理學的に、きびしく細かく教へられてゐた。今はあゝ云ふ人が居ないのは淋しいことで、うるさいと思つてもこの種の人の一人や二人がゐて絶へず、教育しないことには權威ある日本水連役員の面目を維持することが出来なくなる。これで僕はタイマーとしては相當自信があつたものだ。そこへもつて来て田畑さんから鐵砲をやれとの命令である。軍隊の癖で一言もなく之に服従した。幸に今は供出してないが、當時僕は舊式の五連發の回轉式拳銃をもつてゐて、連盟で使つてゐる信號銃よりも輕快で確實だつたし、又彈も連盟のものをそのまま使へた。あれから十年間僕はずーと鐵砲屋である。

× × × × × × ×

スターターはよく聲が通らなければならぬ。陸上競技と違つて、フースの幅が大きく大體その數も多く、而も聲援する觀衆にも近いために、聲の低く少い人々は困る。見透しの點から背も高い方がよく、その點僕なんか不適當である。スターターは、選手の側から云つても、タイマーの方から云つても同じ競技會では成るべく同一人がやつた方がよく、一昨年（昭和十四年）のオールジャパンの時もこの話が出たので去年の野毛山の國體では僕は四日間打ち

續けた。従つて聲の耐久力が必要になるが、とても續きそうもなかつたので僕は、ポートのコックスからヒントを得てメガホンを使つたが非常に樂でよかつた。

スターターは適確な反射運動を必要とする。「用意！」と發聲してから短い時は $\frac{1}{2}$ 秒、長い時でも特別の場合の他は二秒も立てば、スターターの眼には撃つのは「今だッ！」と云ふ選手の狀態が映る。それを頭で撃つてもよいと云ふ判断を下し、之を指の神經に發砲の命令をし、指が動いて「ドン」と鳴るまでは人にも依るし、同一人でもその時の心理的な狀態で長い時には〇・一秒位かゝるのではないかと思ふ。所がこの〇・一秒の間に相當のモーションを起す選手がゐる。之はスターターにとつては最も苦手である。何とも處置なしである。然し目で發砲すべき選手の狀態を捉へてから、信號銃の引鐵を引くまでの時間は出来るだけ短い人が適してゐることになる。之は信號銃の引鐵に對する指のあて方が多いに影響する。つまり引金はある程度引いて置いて、落ちる直前まで持つてゆかねば、指の作動時間が長くなる。

現在各方面の競技會を見てゐると、完全なデッドスタートとは申し上げにくい。以前の様なフライングスタートとデッドスタートの合の子の様なものだ。「用意！」から「ドン」までの間の時間を短くすれば、之はスターターとしては誰でもやれる。至極簡單で何の苦勞もなく一齊にスタートを揃へることが出来る。選手も樂だし、タイマーも容易だ。然し之ではデッドスタートの意味がない。規定にも「用意」から充分時間を與へて出發せしめよと書いてあるのである。充分なる時間には何秒と云ふ定つた時間は規定してゐないが一秒や二秒以内では充分なる時間とは云ひ得ないだらう。

去年のオールジャパンの時に一部のタイマーから苦情が出た。それは「用意」から發砲まで時間が長いと氣合がぬけて時計を押し難いと云ふのだ。然し之はタイマーの腕が悪いので、それがため、フライングスタートをやるのは間違ひである。

所で、選手としては「用意」で、全神經を、耳から、脚、腕に直結させて、大事な急激なモーションの即應狀態に維持することは、さう長く出来るものではなく精々三〜四秒ではないかと思ふ。所謂「氣がぬける」のであ

る。この張りつめた状態を維持出来る人と出来ない人は長く抑へて撃つた場合にハツキリ現れて、斯う云う場合非常に遅れる選手が出る。これは選手の責任だと云へばそれまでだが、スターターとしても上出来とは云へない。この場合はスターターとしては「やり直し」を宣するのがよい。このことは別に規定にさうせよと定めてゐないが、又さうしてはいけないともうたつて居ない。一種の應用動作である。

× × × × × × ×
スターターの道具として一番研究を要するのはやはり信號銃と装填さるべき弾である。戦前の様な信號銃を使用し得ない現状で、もつとこの方面に研究と進歩とあつてもよささうなものだが、日本記録が更新され、世界記録が破られても、この方面には少しの進歩がなく舊態依然たるのはどうした理か、先づ信號銃は次の様な道条件を萬足したものでなければならぬと思ふ。

一、衝撃力が大なること。

之は分り切つたことで、衝撃力が大であれば弾の品質が少々悪くとも之をカバーして撃發することが出来るのである。

二、常に三發以上用意し得ること。

競泳規則第四條には「毎回三個以上の空砲を用意し置くべし」とある。然し二發用意出来る現在の様な信號銃を二個使用しても之に合致することになる。規定に示されてある通り「連發信號器を使用し、毎回三個以上の空砲を装填し置くべし」を素直に解釋すれば、一挺で三發以上を装填し得るものが本當であらう。

三、第一發の引金と、第二、第三發目の引金動作はワンモーションにならぬこと。但し第二發目と第三發目の引鐵動作はワンモーションでもよい。

現在の信號銃は反射的にグツと引金を引いた場合に、第二發目も連続的にドドンと撃發されることがある。之では一發でも立派な一齊スタートをしたものもフライングの信號を與へることになる。二發目と三發目は之はワンモーションでもよい。どうせ二發目、三發目を打つ場合はフライングで一刻も早く打つてやる必要があることだから連続出ても構はない。現在使用してゐる型のもので云ふならば一發毎に引金を引く様になつて置ればよいので半分引いて一發、更にそのまゝ一杯引いて二發目が出るのは困る。この點回轉式の拳銃は理想的と云へよう。

四、第一發目の發火と共に第二發目の弾が飛び去る様な現在の様な信號銃は落第である。

五、第二、第三發目の弾はフライングスタートの場合の豫備であるから相當長時間、場合に依つては競技開催

時間中少くとも三時間位は撃發装にしたまゝで置くことがあるが「バネ」はその疲労に充分堪へることが必要だ。この點については現在の使用信號銃は大體合格するものと思ふ。僕は某バネ専門會社に依頼して實驗した所に依れば、三日間七二時間撃發装置にセットした儘放置しても、ほとんど實用上の反撥力の低下は見られなかつた。

第五、弾は市販品を簡單に使用出来ること。

以上色々の條件は現在の使用信號銃を中心に改良すべき點を述べたのであるが、之等の條件を具備したるものを製作することはさう困難なものではないことはこの種のメーカーの技術家は一樣に云つてある所で、たゞその販賣及推獎の點に於て水連は陸連と協同で後援すれば容易に實現し得ると思ふ。

次に弾だ。これは僕は去年國體の時にうんざりする程苦勞した。先づ紙が弱い。防濕が不充分である。紙が弱いと破れ易く又装填しにくい。防濕が不充分であるため、雨の日など使へるのが三分の一位になる。ふところに入れてあたためたり、ちよつと陽が照るとあわてゝ乾したり、全く無駄な骨を折らなければならぬのは情なくなる。而もそのボール箱のケースには「體育協會御指定」と立派に書いてあるのには驚く。體育協會の責任を問ひたい。

近頃の弾は音も勿論低いが發煙量も少ない。めつたにないが、稀にタイマーがスターターの信號銃を見ないで選手を見て居て耳で音を聞いて時計を押す勇ましいタイマーも去年の國體競技會に居た。之は例外で頼りとするのは發煙である。所が發煙量が少ないと、五〇米競泳の場合なんかはタイマーにハツキリ見えないことがある。特にタイマーの方から見てスターターのバツクが觀客のシャツに依つて白一色にスタンドが塗りつぶされてゐる場合とか又は空（野毛山プール）の場合は煙が見にくい。水泳はまだいゝ方で陸上の場合には百米又は二百米離れて居るので、陸上の方はどうして居るか調べたら、信號銃の後方に黒い板を置いて、遠くのタイマーから幾分でも明瞭に煙が見える様に工夫して居ることが分り去年野毛山の國體で之を應用して効果があつた。

前にも述べたが、一人のスターターが全日本や國體の豫選等で打ち續ける場合精一杯の聲で毎回やるとすぐに聲が枯れてしまふ。所で選手もタイマーも成るべくならば同一人を希望し、どうしても一人で續けなければならぬ場合は、ボートのゴツクスの様にメガホンを使用することを奨める。但しあまり大きなものを使つて視界を妨げるものは困る。メガホンを使ふと八分目の聲量でも選手の方には實によく聞へ、少々位の聲援に依る妨害も邪

處にならない。

× × × × × × ×

最後に現今の競泳規則に一言觸れてみたい。第四條に出發合圖員は競泳開始前に(A)出發合圖又は言語、(B)競技の距離及競泳の終結すべき場所、(C)水面が區劃せられざる時は回泳すべき目的物の指示及廻泳の方法を各競技者に説明しなければならぬことになつてゐる。(A)項は練習のスタート合圖をやればよいのであるが、(B)及(C)項はあまりにも實情に添はない。(B)項は大低審判長がやつてゐるし(C)の如きことは大低プールでやつてゐるし、たとい河や川で行われても、折返し方によるもので廻泳なんて今時考へられない。たといあつても審判長がやるであらうし又夫れが妥當であらう。

出發合圖員の位置に就いては同じく第四條に「出發臺の横後にて全競技者を見渡し得る如く位置すべし」となる。僕の経験から云ふと選手の兩端とスターターを結ぶ線は二十度を越へない方がよい。然しあまり視角をせまくして出發臺に近く寄ると大きい選手の蔭になる小さい選手はよく見えない。だから之を補ふには一尺五寸から二尺位の臺があると全く眼が楽になる。このことは、背泳の場合選手が低い位置に居るためスターターは非常に見透しがよいと云ふ経験は誰ももつて居る所である。

デツドスタートを完全にやれと云ふことは「用意と豫令し充分時間を與へて信號に依り出發せしむべし」とハッキリ明記して居るので明白である。細いことは前に記述したから省略する。問題はその次ぎの文句即ち「信號

前に出發の行動を起し又出發臺より離れる場合は反則とす」の中の「出發行動」の定義である。よく見られることであるが、選手が身體を前にかけてすぎて自らそれに氣がついて、落ちるのを防ぐために手をぐるぐる廻して重心を後にもつてゆかうとすることがある。之は明かに出發の動作ではない。逆に出發しまいと努力する動作である。だから規定から云へば發砲しても構はない。然しながらそこは規定の運用、應用動作で、出来るだけ一齊スタートを與へるのが理想であるから、斯う云ふ場合は少し時間を與へて落すか又はあまり何時までもフラフラする時に「やり直し」を宣すればよい。

背泳は又問題がある。背泳の場合は第九條に「出發信號前に手を放すときは反則とす」と規定してゐる。信號前に出發の行動を起していけないとは書いてゐない。従つて「用意」で手で身體を引きつけるのが普通だが、よく女子なんかに一應みんな揃つてからもう一度身體を一段を高く引きあげる選手がゐる。之は出發の行動を信號前に起してゐるのであるが違反にならぬと思ふ。

× × × × × × ×

色々雑然と書いて來たが、今年から新人がスターターとして起用されることになつた。長らく主任をやつて來た名スターター遊佐君も引退されて村山、小柳、太田の三君が第一線に立つこととなり、その他スターターをやられる人に参考にもなれば望外の望みと思つて貧弱なる経験と知識を顧す筆を走らせた次第である。

(昭和廿五年六月 辻堂にて)

.....

..... 水 泳 話 の 泉

.....

1. オリンピック大會に日本が最初に參加したのは何時の大會ですか、選手の名前を知っていますか。
2. 2度のオリンピック大會に優勝した選手(リレーを除く)が世界中で⁵人居ますが、何處の國の誰でしょう。
3. 日本選手でオリンピック大會に日章旗を擧げた(3位迄に入賞)選手が何人居ますか。
そのうち優勝の金メダルを得たのは何人ですか。
4. 日本人で世界記録を作つて最初に公認された選手は誰でしょう。 以上答 25頁
5. 選手生活中公式競技会で2着になつた事が2回、他は全部優勝した選手が日本に居ましたが誰でしょう。
6. 1500米自由形に世界中で19分以内の公式記録を出した選手が何人居ますか。 以上答 28頁

水球新規則の問題

和田 幸一

既に FINA によつて、一九五〇年より実施すべきニュールールが決定された。此れに依つて國際水球の方向が決定し、我々の行くべき道も決つた譯である。先にロンドンオリンピック大會終了後、南米ルールが試みとして暫定的に各國に於て行はれ、そして今日のルールに決定するまで目まぐるしいほどの改良が行はれたのである。何故此の様に變つて來たかを見ると、色々の問題があつたのだが、實際的にまづ一九三二年のロスアンゼルスで行はれた、オリンピック大會の時、少數の國によつて採用されていたフローティングシステムが次のベルリンオリンピック大會に於ては、その參加國の半數以上によつてそれぞれ特徴あるフローティングシステムとなつていた。既にこの大會の時にルール改良の問題が提出された譯であつて、戦後第一回のロンドンオリンピック大會に於て此のフローティングシステムがおそらく全般的に採用され、がつちりと四つに組んで激烈な試合が展開された事は想像するに難くない。

フローティングシステムはそれぞれ個々の分業化と共にゴール前のポジションの取り合ひ競り合ひ等が非常に猛烈になつて行き、急テンポで水中テクニクと稱するまでに發展したのである。先に南米ルールが紹介された時、水球はこのまゝではおそらくオリンピック大會から除外されるであらうとまで云はれ、水球自體の危機にまでおこまれたのである。そして今回のニュールールの決定を見たのであるが、残された問題として我々自體がいかにか此のルールを行ふか、チーム自體がいかにかもつて行くかと云ふ事になる譯である。それには此れを要約して二つの事項を擧げる事が出来る。

まづ第一に卓越せる審判員の養成である。試合にのぞみ、個々並にチームをボールに對し完全にプレー出來得る様、そして又精神的にプレーヤーが試合運行に絶對的な安心感を持つてプレー出來得る様、この線に目標を置いて理論的にも實際的にも一日も早く養成に務める事である。

第二はプレーヤー自體の問題である。これはそれぞれ所屬チームの監督又は主將に依て、精神的に實際的に指導せられ訓練されねばならない。此處で問題として最も具體的な、持つ、引張る、押す、等の點を取り上げて見よう。

此れらの反則は總べてレフェリーの見ていない時、そしてこれが水中で行はれると云ふ事である。かゝる反則は先に述べた如く精神的な指導は勿論云ふを俟たないが、技術的に此れを見ると最も水球の根本的な基礎の練磨によつて解決され得ると云ふ事である。

それはまづ泳ぎに始つてボールワークに行くまでのごく初歩の鍛練であるが、今日の日本のチームに於て完全にこの段階を經ているチームがあまりにも少いと云ふ事である。それは手、腰、足、と大別してその個々の鍛練が殆ど未完成であるからであつて、手、腰、足、の完成とボールワークと相まつて始めて完全な一個のプレーヤーになり得るのであつて、そして又チームの一員に成り得ると云ふ事である。ボールワークに入るまでの或は平行して行はれる、手腰足の鍛練が完成されるならば、持つ、引張る、押す、等の反則がいかにか拙劣なものであり、この最も根本的な基礎を持つプレーヤーに對しては、何の効果もない事に氣がつくのである。そして又それと同時に精神的になんら動搖を與へる事も出來ない事を知るのである。そして其の反則を行ふ事に依て、そのプレーヤー自體の退歩が始つていと云ふ事に氣がつくのである。これは我々の周圍を見ても國際的なゲームを見ても明らかな事である。

故にプレーヤー自體としては完全なそして強靱な手と腰と足の鍛練につとめ、これを一體とする事に依て一步一步水球技術を修得して水中テクニクなる反則を解決して行くと云ふ事である。勿論此の基礎技術のみと云ふよりこれは水球技術の全くの初歩であり、ほんの一部ではあるけれど此れなくして次の技術は有り得ないし、又ニュールールを忠實に行ふ最も近道であると同時に、高度の技術修得とゲーム運用の近道であると云ふ事を信じて疑はないものである。そして前述した第一義的な審判員の養成とあいまつて、此れら總べてを指導される人々とが一體となつて我々のニュールールを運行する事によつて日本の水球の發展があり國際的な飛躍があると云ふ事を記して置きたい。

古橋選手の泳ぎを中心に

ジャム・ハンデイ

古橋選手が昨年アメリカに遠征して以来同君の泳ぎについていろいろの説が出た。これもその一つで、米體協機關紙三月號にのつたもの、筆者ジャム・ハンデイ氏は六打クロール創始當時の選手でアメリカチャンピオンとなつたこともある。編集者はこれを特に權威ありと考え轉載したわけでないがこういう見方もあると讀者の参考までに一讀に供する次第。

従來の六打クロールにはどういふ缺點があるか。

簡單にいうと次のようになる。

(A) 脚のビートは空氣を水中に打ち込み泡を生じるがビートが相次いで行われるため絶えず泡が出来る。そ



古橋選手の泳ぎ
(水中寫眞)



古橋選手の泳ぎ
(水中寫眞)

れで片方の脚は他の脚のつくつた泡の中で動くことになる。これに對しては水の一層の濃度をもつことが出来ることを研究する必要がある。

(B) 脚は腕が水を搔いていない無力状態の瞬間のほかは腕との歩調が合わない。脚が下に動くのは腕の動きに對して反對の働きをする。腕が全力で體を前進させているとき脚は腕に引きずられている。これに對しては一層の流線化が出来る。

(C) 脚の動作が早すぎるため疲勞毒總を排出するいとまがない。使つた血液を淨化し新しい血液を供給するために必要な血液の循環速度の約半分速度で脚をけつ

ている。

一層の酸素供給が出来ることを考へる必要がある。

(D) この不自然な腕のキツクに腕を合わせるため水を抑へ水をかき上げることで力を浪費しもつと前進出来る力を失つている。

一層の腕の効用を考へることが出来る。

(E) 以上にあげた缺かんが停滯動作を引き起し一かき毎の運動量を減殺し脚の水に對する推進力を減じ不必要な疲勞を起し前進力を損う。

選手は人によつて六打のタイミングと力を入れる細部では非常に違ふが、いずれもさきにのべた消極面のスピードを遅らせる害をうけている。

百ヤードでは一般に四十二回から四十八回の引止め作用がある。

絶えず注意して觀察するとその深さ、期間、タイミングの特徴がよくわかり、寫眞分析はこれを確證してくれる。百ヤードでは恐らく疲勞という原因を別にしても2秒から8秒の損失が生じる。

もし以上のことを調整するため我々がスタイルを變へ心臓、運動筋肉のタイミング、水面上にあるときの水面下の推進作用、流線化、プロペラー、流體力學等についての如識に注意を拂はなければ、だれかが將來やるだろう。

これの出来る素質のある選手は適當なインディクションをつけることにより、記録をうんと上昇させることが出来る。

(A) 六打による水の濃度の薄れること

グエザリングという言葉がある。海軍用語で碎けた無色の水をいう。波の攪亂はパーチエス(テコ)にはよいかも知れないが空氣で泡立つた水はパーチエス(テコ)の力は少ない。パーチエスとは海軍用語でしつかり保持出来ることをいう。

水を白くする泡は恐らく脚が水から出るとすぐ再び入ることによつて起るものだ。

私は泡が多すぎて水を薄めない限り泡そのものに反對なのではない。Twin-tail(後述)でこの泡は非常に減じ殆んどなくなる。(但し水平に浮く泳者の場合は脚が非常に高くなるから別だ)

古橋は空氣と水の混合によるこの白い水を主として脚を横にキツクする力——水面に平行でしかも水面下——で避けている。

(B1) 六打の後退作用

キャヴィテーションという言葉がある。これは水中を速く動く物體の後ろに空洞が出来ることをいう。この空

洞は物體のすぐ後ろにすぐ出来る。物體が自己の力で動く場合空洞は進行方向と一直線上の後ろに出来る。

その物體が他の力で引張られる場合空洞はその引張る力と關勞して後ろに出来る。

従來のクロール、キツクでの消極面は腕が一番きいてるとき兩脚の後ろの水中に出来る空洞によつてはつきりする。これらの空洞は寫眞でみると1秒に0.004の割合で出来ることがわかる。こういう空洞は泳者を引きもどす真空の吸引作用を意味する。この空洞現象は脚または足が體を推進させるのでなく腕に引きずられていることを示している。これらの穴は腕が最大に働いているときに脚が下に打たれると共に出来る。腕が働く中間(腕が伸びて脚のキツクが水をつかみ腕に引きずられていない時)は出来ない。

(B2) “寄生の牽引”による六打の損失

牽引は空中あるいは水中の進行をとめる力である。“寄生の牽引”は航空言葉で進行方法と交叉して突き出る部分から受ける否定的な影響をさす。これは通常推進の働きをしない部分に適用されるが推進の働きをする部分から生じる否定的な影響にも適用される。リス・ジガイブヤミスその他の選手のストロークをストロボの寫眞にとつてみると腕が最大に働いているとき胸骨(胸の最下部)以下に脚をけり下げるとその脚の下向動作から寄生牽引を生じる(その時脚は腕の働きに反對の動作をしている)寄生牽引は選手のキツクのタイミングにより力が最高に働いている間あるいはそのすぐあとにくる最高スピードの出ているときに起り得る。

以上のことに對してどうすべきかは問題である。疲勞を少くして餘分のスピードを得ようとする方法は少くとも四つある。

1. Twin-tail 脚を片方ずつビードの幅を減じて垂直に魚が尾ヒレを振る如く振る——均等な運動量を維持するよう脚の動きの調子をとる。

2. ビードを省く 腕が最大に働いているときの脚のスピードを省くか最少にする——橋爪の右脚と少なくなつたビードをみよ。

3. 六打の幅をせばめる 脚の動作を軽くし少くとも二ビートは胸骨あるいは龍骨の線以下にさげない。脚の働いている間脚の力をセーブする。

4. 旋回し引きずれ 古橋が胴體の中と深さの範圍で水平にキツクの力を加え脚を圓くけつてのをみよ。

この四つの方法には利點もあれば不利もある。さらに十七の方法があるようだ。

(C) 脚の疲勞からくる六打の損失

“脚の回復”これは特に化學的な回復の意味で位置の回復ではない。血液中の乳酸その他の疲勞毒等の酸化をいつている。

この回復期間がいつあるのかわからない。しかしこういう休息はあるべきだ。腕は一秒あるいは一秒半毎にこういう回復の期間を得ていてそれ程疲れない。血液循環の瓣が開閉するには $\frac{1}{3}$ 秒以上はかかる。他のスポーツでは力をこめている合間にこの回復に必要な以上の時間を得ている。クロールでは脚が一番必要でなくむしろ邪魔なときつまり腕が最大に働いているときこの回復の時を得ているといわれる。

そこで腕をかいている中間、つまりクロールでは両腕がのびた時無力の時に脚の餘力を出してはということになる。別にもよい方法があるかも知れぬ。

(D) 従來の脚の掻き方による六打の浪費

腕のストロークの殆んど無價値の部分、この無價値の部分とは腕が水に入り出るまでの間の $\frac{1}{4}$ をいう。アメリカの選手が泳いでいるのをみると、この部分は最初の三十五度と終りの十度である。

もち論アメリカの六打クロールで従來の腕の動作の最初と最後の部分の評価については問題になつている。この部分は何らかの推進價値をもち、また休息の價値をもつているかも知れない。しかし反面時間の浪費と効果の點で多くをさきすぎているかも知れない。

日本選手は腕が體側にくるか上にあるが前にかくのをやめる。かき初めは一層推進の價値のある角度にのみ働く。腕の回復には掻く動向のすべてに十分の餘裕がある。

この日本選手の腕の休息は體の下にあるときから始まる。日本のスプリンターは長距離選手よりも遠くに腕を伸ばすが長距離選手以上のスピードを示していない。

古橋と橋爪は腕を前に投げ出しついで形をとつて休息の時間は短くしているが腕の回復には一層有効な効果を得ている。

日本選手の腕のストロークには化學的な回復に十分の餘裕がある。これは脚の休息に整える時間の倍である。しかも脚は心臓の位置からは腕よりもずつと遠い。我々は腕に對しては脚に興える休息の三乃至四倍の休息を整えている。

日本の長距離選手は泳いでいる間中腕と脚を一ストローク毎に休めている。そして泳ぎ終つても休息がとれている。

(E) 才能に、たしかにそうだ。

トレーニング、たしかにそうだ。猛訓練。たしかにそうだ。しかし技術も大切である。

もち論我々は身體の才能がなければ意味のないえとはよく知つている。心の構え、競争心も含めて、これは支配的な要因である。我々は大てい日本人はトレーニングの方法で我々よりも進んでいると考えている。同様に日本に長い距離を泳ぐ少年が多い。

しかし筆者は才能のスカウトではない。心構えやトレーニングの優位あるいは水泳人口についてはどうにも出来ない。それで私は技術の考察に努力を傾けている。水泳は單にスポーツであるばかりでなくアートでありまた水中の推進に人間の馬力を効果的に働かす科學であることを信じているからだ。

過去こういう考えが適用された時レコードはグングン上昇した。現在はおつともつと考えなければならぬ。我々は一九〇六年のスタイルを選練しながら優位をしめてきたが、これはたゞ他の國が我々のあとを歩いてきたからだ。今日外國は近代的な科學の原則を適用しはじめている。我々は古い形から抜け出た方がよい。

水 泳 話 の 泉 (答)

1. 日本がオリンピック大會に最初に參加したのは1920年(大正9年)アントワープの第7回の大會で、參加選手は内田正練、齋藤兼春の兩氏です。
2. 2度のオリンピック大會で優勝した選手は、

カハナモク(アメリカ)	{	第5回大會100米自由形	1:03.4
		第7回 "	1:01.4
ワイズミュラー(アメリカ)	{	第8回大會100米自由形	59.0
		第9回 "	58.6
鶴田義行(日本)	{	第9回 "	2:48.8
		第10回 "	2:45.4
ケーロハ(アメリカ)	{	第7回大會100米背泳	1:15.2
		第8回 "	1:13.2
ノレリアス(アメリカ)	{	第7回大會400米自由形	6:02.2
(女子)		第8回 "	5:42.8

 の5名です。

3. オリンピック大會で日章旗を擧げた選手は、リレーも加えて全部で24名です。その中2回擧げた選手が鶴田、高石宮崎、牧野、清川、小池、新井、鶴藤、前畑の9選手。3回擧げたのが遊佐選手です。

優勝したのは鶴田、宮崎、北村、清川、遊佐、豊田、横山、寺田、葉家、杉浦、田口、新井、前畑の13選手で、其のうち2個の金メダル獲得者は鶴田、宮崎、遊佐の三選手です。
4. 日本人で世界記録を作つて最初に公認された選手は入江稔夫選手で、昭和3年10月14日玉川プールで行われた國際競技に作つた200米背泳 2:37.8です。

全米學生大會

3月23日—25日(オハイオ)

△1500メートル自由形

- ①ジャック・テイラー(オハイオ州立)18分38秒3
②ラルフ・サラ(スタンフォード)19分11秒6 ③ピーター・コール(スタンフォード)19分38秒9 ④ブリアン・カンニング(ワシントン州立)19分43秒2
⑤ドン・ワッツオン(アイオワ)19分43秒3

△50ヤード自由形

- ①エド・カースト(アイオワ)23秒4 ②ジム・エカート(ノースウエスタン)23秒6 ③ヘンリー・パットン(ミシガン州立)23秒5 ④アルヴォ・チャーレン(ウイスコンシン)23秒7 ⑤マツクレロイ(南メソジスト)23秒9 ⑥トーマス(パーデュー)23秒5

△100ヤード自由形

- ①クラーク・スコレス(ミシガン州立)50秒9 ②W.ファーンズワース(エール)51秒8 ③小林(オハイオ州立)52秒0 ④マンソン(エール)52秒2 ⑤ドーリー(オハイオ州立)52秒2 ⑥ドン・スミス(カ州)52秒4

△220ヤード自由形

- ①ジョン・ブラム(エール)2分10秒0 ②トム・ファーンズワース(エール)2分10秒2 ③ギルバート(テキサス)2分11秒2 ④サラ(スタンフォード)2分12秒2 ⑤ステージーヤ(ミシガン)2分12秒2 ⑥マツト・マン(ミシガン)2分12秒5

△440ヤード自由形

- ①ラルフ・サラ(スタンフォード)4分43秒1 ②テイラー(オハイオ州立)4分44秒7 ③ステージーヤ(ミシガン)4分48秒8 ④W.ウルフ(南加大)4分53秒0 ⑤D.ホフマン(ミシガン州立)4分53秒0 ⑥ギルバート(テキサス)4分58秒3

△150ヤード個人メドレー

- ①ジョー・ヴァーデニアー(ラザール)1分31秒2 ②モス(ミシガン)1分32秒5 ③バルモレス(オハイオ州立)1分33秒7 ④メーヤー(インディアナ)1分35秒7 ⑤マツクマレン(エール)1分36秒9 ⑥ステイツクニー(シンシナター)1分37秒4

△100ヤード背泳

- ①ビル・ソナー(オハイオ州立)59秒1 ②フェツターマン(マイアミ)59秒5 ③パターソン(ミシガン州立)59秒8 ④ブルツクス(パーデュー)59秒9

- ⑤ラトキーウイツチ(エール)1分0秒3 ⑥シャウプ(ミシガン州立)1分0秒4

△150ヤード背泳

- ①ジャック・テイラー(オハイオ州立)1分32秒1 ②ソナー(オハイオ州立)1分33秒0 ③コートン(ミシガン州立)1分34秒6 ④コックスヘッド(コルゲイト)1分35秒8 ⑤ラトキーウイツチ(エール)1分35秒8 ⑥フェツターマン(マイアミ)1分36秒2

△100ヤード平泳

- ①ボツブ・ブローナー(プリンストン)59秒9 ②モス(ミシガン)60秒3 ③スタスフオース(アイオワ)61秒0 ④エリオット(ミシガン)61秒5 ⑤ヴォルグ(ジョージア)62秒6 ⑥フィッツゼラルド(ラザール)63秒1

△200ヤード平泳

- ①ボツブ・ブローナー(プリンストン)2分14秒3 ②ヴァーデニアー(ラザール)2分15秒6 ③スタスフオース(アイオワ)2分17秒3 ④ダシロツプ(パーデュー)2分21秒1 ⑤シーボルド(ミシガン州立) ⑥オマンス(ミシガン州立)2分24秒1

△400ヤード・リレー

- ①エール 3分27秒9 ②ミシガン 3分30秒 ③オハイオ州 3分30秒8 ④アイオワ 3分31秒4 ⑤アーミー 3分34秒6 ミシガン州立 3分30秒7(失格)

△300ヤード・メドレーリレー

- ①エール 2分51秒2 ②アイオワ 2分53秒5 ③オハイオ州立 2分53秒6 ④パーデュー 2分54秒8 ⑤ミシガン 2分54秒7 ⑥ミシガン州立 2分55秒8

△1メートル飛板飛込

- ①ブルース・ハーラン(オハイオ州)435.00 ②ブラウニング(テキサス)404.25 ③チェリツチ(ノースウエスタン)387.35 ④ピリングスレー(オハイオ州立)382.90 ⑤カルコーン(オハイオ州立)348.30 ⑥シンプソン(オハイオ州立)341.20

△3メートル飛板飛込

- ①ブルース・ハーラン(オハイオ州立)460.95 ②ブラウニング(テキサス)449.60 ③カルブーン(オハイオ州立)415.45 ④チェリツチ(ノースウエスタン)406.65 ⑤マリノ(オハイオ州立)396.65 ⑥ピリングスレー(オハイオ州立)377.60

△チーム得点

- ①オハイオ州立 64 ②エール 43 ③アイオワ 25 ④ミシガン 24 ⑤ミシガン州立 17 ⑥スタンフォード 15 ⑦プリンストン 12 ⑧ラザール 10 ⑨ノー

全米女子室内水泳選手権大会

は三月十四日から三日間フロリダのバーム・ビーチで
 舉行。四つのアメリカ短水路新記録が生れた。

シカゴタウンクラブのモリー・オブライエンは 100
 ヤード背泳 1分7秒4 を出し一九三六年エレナー・ホル
 ムがつくつたタイムを $\frac{1}{10}$ 秒破つた。

またラフアイエツトのカロル・ペンスは 220 ヤード平
 泳を 3分4秒1 で泳ぎ、ブラジルのレンクのもつアメリ
 カ記録 3分5秒8 を更新した。

100 ヤード平泳ではマルトノマクラブのジュディ・コ
 ーネルが 1分12秒6 のアメリカ新記録をつくり、300 ヤ
 ードメドレーではラフアイエツトのドーリング、ペンス、
 マレンのトリオで 3分25秒9 のアメリカ新記録をつくつ
 た。

なおチーム成績ではシカゴタウンクラブが優勝した。

△ 100 ヤード自由形

- ①メアリー・コリドン (ニューヨーク女子水協) 1分0秒
 1 ②アヴアイン (シカゴタウン、ク)

△ 220 ヤード自由形

- ①ジャツキー・ラヴアイン (シカゴタウン・ク) 2分32
 秒3 ②ジュワルツ (ケノシヤ)

△ 440 ヤード自由形

- ①ジャツキー・ラヴアイン (シカゴタウン・ク) 5分28
 秒9 ②マロリー (クリスタル・プランヂ)

△ 100 ヤード背形

- ①モリー・オブライエン (シカゴタウン・ク) 1分7
 秒4 (アメリカ新) ②ジアリー (ラフアイエツト)

△ 200 ヤード背形

- ①モリー・オブライエン (シカゴタウン・ク) 2分29
 秒5 (アメリカ新) ②ゼンセン (クリスタル・プラン
 チ)

△ 100 ヤード平形

- ①ジュディ・コーネル (マルトノマAC) 1分12秒6
 ②ペンス (ラフアイエツト)

△ 220 ヤード平形

- ①キャロル・ペンス (ラフアイエツト) 3分4秒1 ②
 ハルトン (ブライトン水ク)

△ 300 ヤード個人メドレー

- ①バーバラ・ゼンセン (クリスタル・プランヂ) 4分0
 秒4 ②ローランド (タコマ水ク)

△ 440 ヤードリレー

シカゴタウン・ク (オヴライエン、アルダーソン、ス

コット、ラヴアイン) 4分7秒7 ②クリスタル・プラ
 ンヂ

△ 300 ヤードメドレーリレー

- ①ラフアイエツトカントリー・ク (ドーリング、ペ
 ス、マレン) 3分25秒9 ②シカゴタウン・ク

△ 1メートル飛板飛込

- ①サラ・ウエークフィールド (ノースカロライナ大)
 133.90 ②ジュノ・ストーヴァー (無所屬)

△ 3メートル飛板飛込

- ①メアリー・フランシス・カニンガム (ラフアイエツ
 ト) 143.70 ②マコーミツク (ロサンゼルス)

全米男子室内水泳選手権大会

は三月三十日から三日間エール大學プールで舉行。オ
 ーストラリア選手でエール大學の新人として出場したジ
 ョン・マーシャルは第一日の 1500 メートルで18分37秒
 0の世界新記録を出した。この種目のみは 50 米プール
 で泳いだものである。

彼はさらに第二日の 220 ヤード自由形でスミスの2分
 7秒1 を破る 2分5秒5の世界新記録を出し途中計時
 200 米にはジヤニーの 2分5秒4 を破る 2分4秒6 を記
 録した。また 440 ヤード自由形でも世界記録スミスの
 4分38秒5 をしのいだばかりでなく途中400米では橋古
 の世界最 4分33秒3 を上まわる 4分29秒5 の大記録
 を出した。

これで彼は一つの大會に五つの世界新記録をつくつた
 わけである。なお 1500 の 400 と 800 の途中計時は 4分
 43秒8 と 9分55秒であつた。

220 ヤード平泳では新人のブローナー世界第一人者
 ヴァーデューアをうちまかす熱戦を展開、途中 200 米計
 時ではヴァーデューアが 2分28秒の世界新記録を出して
 いるからラストでブローナーがわずかに抜いたわけであ
 る。

チーム得点ではマーシャル、マツクレーンらのエール
 大新人組が優勝。個人得点はマーシャルが 18 点で最高
 位をしめた。

マツクレーンはマーシャルの蔭にかくれた感じだが、
 それでも 1500、440、220 ヤードともかなりの好成
 績で二着となつてゐることは注目される。

△ 1500 米自由形

- ①ジョン・マーシャル (エール大新) 18分37秒0 (世界
 新) ②マツクレーン (エール大新) 19分24秒9 ③テ
 イラー (オハイオ州大) 19分44秒5 ④B. ジョーンズ
 (キャンブ・チョコピ) 19分50秒4 ⑤サラ (無所屬) 20

分9秒1 ⑥ムーア (エール大新) 20分12秒6

△100 ヤード自由形

- ①クラーク・スコレス (ミシガン州大) 51秒3
- ②ウエーンバーグ (シカゴ市大) 51秒3
- ③I. ジョーンズ (ブライトン水大) 51秒8
- ④小林 (オハイオ州大) 51秒8
- ⑤ニューゼント (ニューヨークAC) 51秒8
- ⑥ガイブ (デトロイトAC) 52秒1

△220 ヤード自由形

- ①ジョン・マーシャル (エール大新) 2分5秒3(世界新) (途中200米正式計時2分4秒6世界新)
- ②マツクレーン (エール大新) 2分8秒6
- ③ムーア (エール大新) 2分9秒9
- ④ブラム (ニューヘヴン水大) 2分9秒7
- ⑤フアンズワース (ニューヘヴン水大) 2分11秒9
- ⑥マツト・マン (ミシガン大) 2分11秒9

△440 ヤード自由形

- ①ジョン・マーシャル (エール大新) 4分31秒2 (世界新) (途中400米正式計時4分29秒5世界新)
- ②マツクレーン (エール大新) 4分42秒2
- ③ヒュースナー (シカゴ市大) 4分46秒3
- ④ムーア (エール大新) 4分46秒5
- ⑤サラ (無所属) 4分47秒4
- ⑥マツト・マン (ミシガン大) 4分58秒6

△150 ヤード背泳

- ①アレン・スタック (ニューヘヴン水大) 1分32秒9
- ②テイラー (オハイオ州大) 1分33秒1
- ③ソナー (オハイオ州大) 1分34秒3
- ④ユートン (ミシガン州大) 1分34秒8
- ⑤トーマス (ノースカロライナ大) 1分35秒9
- ⑥シャープ (ミシガン州大) 1分35秒9

△220 ヤード平泳

- ①ロバート・ブローナー (プリンストン大) 2分29秒3
- ②ヴァーデューア (ブライトン水大) 2分29秒4 (以上アメリカ新)(ヴァーデューアの200米正式計時2分28秒世界新)
- ③スタスフォース (アイオワ大) 2分34秒6
- ④シーポルド (ミシガン州大) 2分41秒5
- ⑤オマンス (ミシガン州大) 2分43秒0
- ⑥マツツオン (ワーセスター) 3分7秒

△300 ヤード個人メドレー

- ①ジョセフ・ヴァーデューア (ブライトン水大) 3分25秒1
- ②トーマス (ノースカロライナ大) 3分26秒2
- ③テイラー (オハイオ州大) 3分29秒7
- ④マツツオン (ワーセスター) 3分29秒8
- ⑤バルモレス (オハイオ州大) 3分31秒2
- ⑥マツクマレン (ニューヘヴン水大) 3分38秒3

△300 ヤードメドレーリレー

- ①ニューヘヴン水大A (スタック、エサート、リード) 2分51秒6
- ②ブライトン水大 (ドーシュ、ヴァーデューア、I. ジョーンズ) 2分51秒8
- ③アイオワ大2分51秒8
- ④ミシガン州大A 2分53秒7
- ⑤ニューヘヴン水大B 2分54秒5
- ⑥オハイオ州大2分57秒1

△400 ヤードリレー

- ①ニューヘヴン (ブラム、フアンズワース、マンソン、リード) 3分26秒4
- ②エール大新 (マーシャル、マツクレーン、シェフ、トーマン) 3分27秒5
- ③ブライトン水大3分28秒8
- ④シカゴ市大3分29秒0
- ⑤ミシガン州大3分30秒0
- ⑥オハイオ州大3分31秒5

△1 メートル飛板飛込

- ①ブルース・ハーラン (オハイオ州大) 138.10
- ②ブラウニング (テキサス大) 133.18
- ③キルダース (無所属) 117.98
- ④ビリングスレー (オハイオ州大) 106.16
- ⑤ハッドリッチ (ニューヘヴン水大) 104.93
- ⑥カルフーン (オハイオ州大) 104.65

△3 メートル飛板飛込

- ブルース・ハーラン (オハイオ州大) 156.08
- ②ブラウニング (テキサス大) 148.85
- ③マリノ (オハイオ州大) 132.35
- ④ビリングスレー (オハイオ州大) 131.70
- ⑤カフエー (無所属) 129.21
- ⑥ハッドリッチ (ニューヘヴン水大) 124.43

△得 点

- ①エール大新43
- ②オハイオ州大35
- ③ニューヘヴン水大32
- ④ブライトン水大27
- ⑤ミシガン州大17
- ⑥シカゴ市大11
- ⑦アイオワ大9
- ⑧テキサス大8

水 泳 話 の 泉 (答)

5. 選手生活中公式競技会で2着になつた事が2回、他は全部優勝した選手は平泳の前畑秀子選手です。その2回2着になつたのは小學生の頃(昭和4年)ハワイで開かれた全米女子戸外選手権大会に出場、200米平泳決勝で米國のグラター選手に敗れ、その後(昭和7年)ロサンゼルス・オリンピック大会200米平泳決勝に濠州のデニス選手にタッチの差で敗れ2着になつたのです。

6. 1500米自由形長水路に於て19分以内で泳いだ選手は下記7名です。

(1) 古橋 廣之進	(日 本)	18:19.0
(2) 橋爪 四郎	(日 本)	18:32.6
(3) マーシャル	(濠州)	18:37.0
(4) ヨンノ	(米 國)	18:44.4
(5) 東 昇	(日 本)	18:47.2
(6) 天野 富勝	(日 本)	18:58.8
(7) 田 中 寧夫	(日 本)	18:59.6

ジョン・マーシャルの最近の記録

ジョン・マーシャル選手は昨年エール大学に入學したオーストラリアの新進で全米室内選手権にすばらしい世界記録を出したが、今シーズンに入つてからの諸記録も次のようにすぐれている。

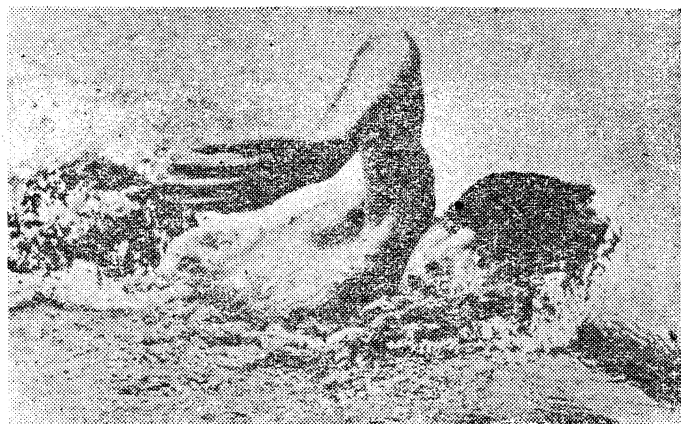
まず二月十一日エール大学25ヤードプールで行われた水泳カーニバルで300、400ヤード、300米の三種目に世界新記録を出した。

300ヤード3分1秒4 (舊ジャーニー3分3秒3)

300米3分20秒 (舊ジャーニー3分21秒)

440ヤード4分36秒4 (舊スミス4分38秒5)

ついで三月十一日エール大学で行つたエール対ハーバードの対抗戦で400米に4分33秒1の世界記録をつつた。



マーシャル選手

また全米室内のすんだのちの六月十一日デトロイトA.C.のプールで500米に5分54秒3の世界新記録を出している。舊記録はフラナガン(米)の5分56秒5である。

世界新記録

ソ連の平泳選手ケオニード・メシニコフは二月下旬100米バタフライに1分7秒の世界記録を出す。(舊ハウの1分7秒3)

アメリカのジョー・ヴァーデュアーは三月八日プリンストンで100ヤード平泳に59秒4の世界タイを出した。

アメリカの新進プリンストン大学のボボブ・ブローナーは三月十二日プリンストンで200ヤード平泳に2分13

秒1の世界新を出した。(舊ヴァーデュアーの2分14秒7)

フランスの女子選手ヴァレリイは四月二十三日カサブランカで百米平泳に1分17秒4の世界新記録を出した。

(舊フリートの1分18秒2)

オランダの女子選手G・ヴィーレマは三月十三日阿姆斯特ダムで100米背泳に1分4秒6の世界新記録を出した。(舊キントの1分5秒1)

オーストラリア選手権

1949年のオーストラリア選手権は12月10日から1週間ノースシドニーのオリンピックスタジアム、55ヤードプールで行われた。

1着記録次の通り
(男子)

△110ヤード自由形 F. オニール 59秒6 (大會新)

△220ヤード自由形 F. オニール 2分14秒6

△440ヤード自由形 D. G. アグニュー 4分55秒3

△880ヤード自由形 D. G. アグニュー 10分17秒0

△1650ヤード クラウエイ 20分30秒6

△110ヤード平泳 バーク 1分11秒9

△220ヤード平泳 ハレット 2分58秒0

△330ヤード個人メドレー F. オニール 4分0秒3
(大會新)

△330ヤードメドレーリレー

ヌヴェルガレチーム 3分29秒0

△飛板飛込 R. フォルズ 166.8

△高飛込 J. V. マツカン 144.88

(女子)

△110ヤード自由形 M. マツケード 66秒5 (大會新)

△220ヤード自由形 J. J. デイヴィス 2分32秒3

△440ヤード自由形 J. J. デイヴィス 5分28秒5 (大會新)

△880ヤード自由形 D. ノートン 11分29秒8 (大會新)
 △110ヤード平泳 J. J. デイヴィス 1分16秒6 (大會新)
 △220ヤード平泳 N. リオンス 3分9秒8
 △165ヤード個人 R. スペンサー 2分8秒2

△300ヤードメドレーリレー
 クイーンズランド 4分0秒2 (大會新)
 △飛板飛込 B. バーネット 114.91

ヘルムス記念館におさめられたアメリカの名選手

ロサンゼルスにある、有名なスポーツ記念館、ヘルムス・ホールに7月14日アメリカの名水泳選手記念室が設けられ、これに13名が選ばれた。

13名は女子では、アン・カーチス、ヘレン・マヂソン、キャザリン・ロールズの三名。男子は、クラレンス・クラブ、チャールズ・ダニエルズ、ラルフ・フラナガン

L・B・グッドウイン、ハリー・ヘブナー、デューク・カワナモク、アドルフ・キープアー、キャロル・シエフアー、ウォルター・スペンス、ジヨニー・ワイズミューラーの名である。

彼らの名前は名譽トロフィーに刻まれ、寫眞を展示、傳記が圖書室に備えつけられる。

飛込のハーラン選手プロに

ロンドン・オリンピックの優勝者でアメリカのチャンピオンであつたブルース・ハーランは、もとのオハイオ

州立大學のすぐれたダイヴァーホビー・ビリングスリーと組みプロに轉向した。

— あ と が き —

今號はもつと早く出すつもりであつたが日米對抗の準備やらその開催に寄稿者、編集者とも忙殺され大變おくらせてしまつた。申譯にならないがおわびします。

☆ ☆

次號は日米對抗を特集するつもりなので今度はそれまでのものを集録した。ニュースとしては讀者にひどく月おくれの感じをあたえるだろうが、これは覺悟の上というよりそのつもりで、そのかわりどこにもものらないくわしい記録をのせるのを方針にしているから了承せられたい。

☆ ☆

たゞ内容についてはいろいろ讀者の注文もあると思うし、今の状態で編集者も満足していない。いい考えがあつたら教えてもらいたい。新しい企てとして傘下各協會の抱負や實情を寄稿してもらつつもりでいる。

☆ ☆

お氣づきの方があつても知れないが、最近號から舊かなづかいと新かなづかいとがチャンボンになつている。

これは新かなに統制してゆきたいのだが、何分手不足でしばらく御辛棒ねがいます。

☆ ☆

新しく宍道洋一氏を編集陣の一人に迎えました。かつて本誌を手がけられた方、御期待下さい。(T)

☆ ☆

昭和二十五年十月十五日 印刷

昭和二十五年十月二十日 發行

定價 五〇圓

日本水泳連盟

編集者 藤田 明
 辻 富士 夫

東京都千代田區神田神保町一ノ五〇

發行者 伊藤 謹 平

東京都文京區大塚坂下町八三

印刷所 日本製版株式會社

東京都千代田區神田神保町一ノ五〇

發行所 株式會社 泰文館

東京都千代田區神田駿河台四ノ六

發賣所 日本水泳連盟

電話神田(25)三一〇六番

曙^がさんに

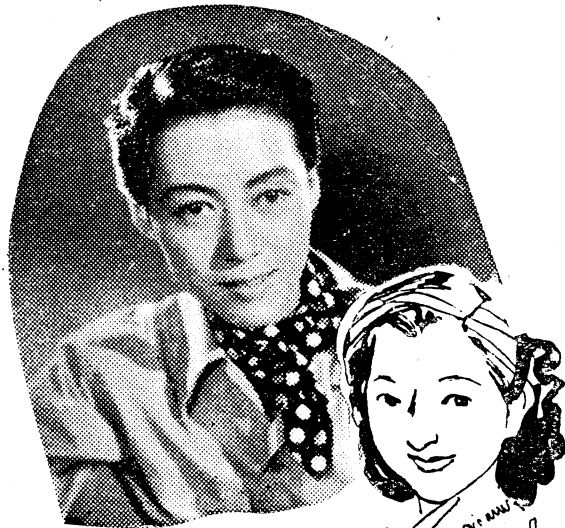
教わつたの

ね、つけて初めて判る、このサラツと爽やかな肌ざわり……それに、ね、そらこんなにめつきり色白に……バニシング・マスター全くすてきよ
それ、化学栄養素^{エステル・ホモ}の作用ですつてだから、私も、潤質粉白粉^{オーリ・ド・マスター}の化粧下にきめてるの

日本で初めての潤質粉白粉^{オーリ・ド・マスター}

いやなものです粉つぼい被覆力^{カバーリング}のよいお化粧はでもオーリ・ド・マスターは、つけたと見えぬ自然な美白^{きれ}いさをスピーディーにあなたのものにします

オーリ・ド・マスター
新發賣



宇治浩毛・ホモ・エステル
強力美白作用 爽やかとサラツ

マスター

バニシング

みごとなエマルジョン—純フランス調

ポプラン・クレーム (新發賣)

夜つけて朝の若肌

コールド・クレーム

昭和二十五年十月十五日印刷
昭和二十五年十月二十日發行

明治ペニシリン

水性

進歩した最も新しい
ペニシリン製剤

油性

注射簡便
治療適確

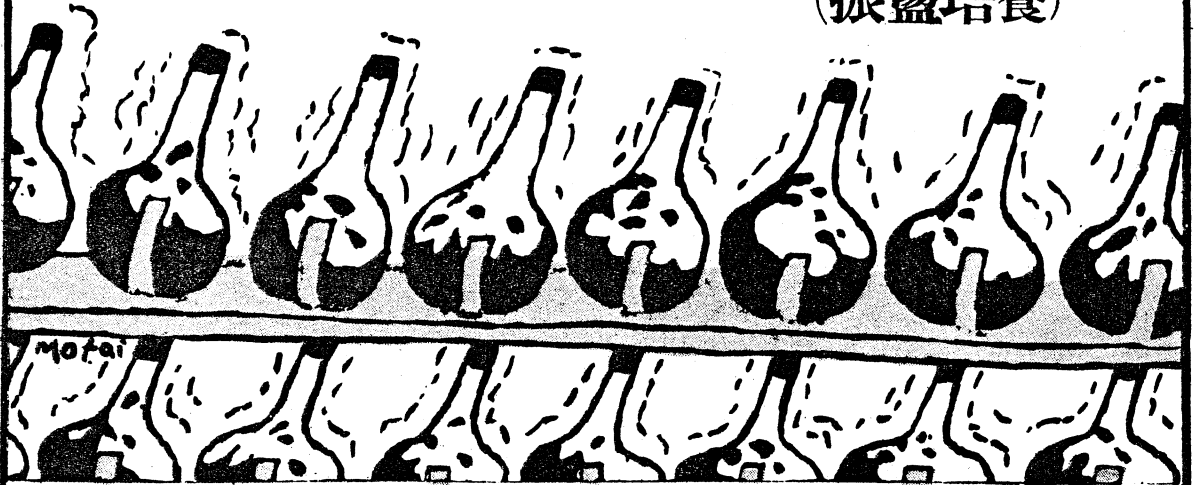
錠剤

肺炎・淋疾の
予防と治療

軟膏

やけど・きりきず
はれもの・できもの
ひげそりあと

(振盪培養)



明治製薬株式会社

水泳 第八十八號

定價 五十圓